

竹山道雄著作目録

松 田 義 男
改訂 2018年7月11日
2016年7月28日

目次

1. 著書(図書の一部)
2. 訳書
3. 評論等(定期刊行物掲載)

凡例

- *竹山道雄(1903～1984年)の著作を、「1. 著書」、「2. 訳書」、「3. 評論等(新聞・雑誌掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- *叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名をくゝに示した。
- *単行書の内容および連載評論で副題が各回で異なる場合【 】に示した。
- *掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1・1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の朝・夕刊がある場合、夕刊のみ[夕刊]と注記した。なお、第二次大戦後の『婦人公論』には、巻次の乱れがあるが、本著作目録では日本近代文学館の巻号表示により1946年を30巻、以後各年を1巻、1954年を38・39巻とし、1955年を40巻、以後各年を1巻とした。
- *雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- *新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- *連載は、初回掲載に一括した。
- *再録書は、初出の注記として[]に記した。『竹山道雄著作集』は『著作集』、<竹山道雄セレクション>は<セレクション>と略記した
- *編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- *その他、編者の注記を適宜[]またはくゝに記した。

本著作目録作成に際しては、「著訳書一覧」・「主要発表一覧」(竹山道雄『時流に反して』文芸春秋、1968年)、平川祐弘編「著作年表」(『竹山道雄著作集 8』福武書店、1983年)、平川祐弘編「竹山道雄の年譜と著作年表の補遺」(『比較文化 福岡女学院大学大学院人文科学研究科紀要』1、2004年3月)、平川祐弘「竹山道雄 主要著作・関連文献一覧」(『竹山道雄と昭和の時代』藤原書店、2013年)を参照したほか、大阪府立中央図書館・国際児童文学館、岡山県立図書館、岡山大学付属図書館、神奈川県立近代文学館、京都大学付属図書館、倉敷市立中央図書館、国際日本文化研究センター図書館、国立国会図書館、金光図書館、栃木県立図書館より資料閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1.著書

我等の語学文化『学生と語学』矢の倉書店、1938年8月13日

『光と愛の戦士』＜少年文化叢書＞新潮社 1942年5月21日

ファウストの夜の場とニーチェ『高等学校外国語教授研究会講演集』文部省専門学務局編・刊、1942年12月23日

追憶『滄海一心』岡本武尚編・刊、1943年

あとがき『現代ヨーロッパに於けるフランス精神』クウルティウス著・大野俊一訳、生活社、1944年3月5日

*島田君の訃報に接して『追悼文集』1944年

*川西瑞夫君の追憶『聖翼の陰に』1945年【『著作集4』収録】

『失はれた青春』白日書院 1947年7月15日【縦の木と薔薇—運命について—、交驢、鴿、蓮池のほたりにて、鎌倉の女たち、本格小説の生れぬ訳、空地、昭和十九年の一高、若い世代(戦中/戦後)、失われた青春、幻影】

『ビルマの堅琴』＜ともだち文庫＞中央公論社、1947年10月5日【ビルマの堅琴(第1話 うたう部隊、第2話 青い鸚哥、第3話 僧の手紙)、あとがき】【「うたう部隊」は日本文芸家協会編『少年文学代表選集 1』(光文社、1949年11月10日)収録。新訂版『ビルマの堅琴』＜ともだち文庫＞中央公論社、1985年2月20日】【ビルマの堅琴(第1話 うたう部隊、第2話 青いインコ、第3話 僧の手紙)、あとがき】

文学の思想性『新文学講座 第一巻 理論編』河盛好蔵編、新潮社、1948年1月31日

『北方の心情—ドイツ文化への省察』養徳社、1948年10月10日【独逸的人間、ゲーテに於ける自然と倫理、「ファウスト」の夜の場とニーチェ、老いたるロッテの悩み、ペッチーネ・フォン・アルニムのこと、ワグナーの弟子、イプセンの願望、将軍達と「理性の詭計」、智識人の裏切?、あとがき】

『憑かれた人々』新潮社 1949年3月5日【焼跡の審問官、不滅の女たちの会話、義、高校生気質、主役としての近代、憑かれた人々】

歌う部隊【『ビルマの堅琴』から】『日本名作選』山本有三編＜日本少国民文庫 10＞新潮社 1949年6月20日

『希臘にて』早川書房 1949年8月25日【希臘にて、不滅の風景画、デダススの翼】

解説『青銅の基督』長与善郎著＜新潮文庫＞新潮社、1949年9月25日

『The harp of Burma』石川欣一訳、中央公論社、1949年12月【英語訳『ビルマの堅琴』】

シュヴァイツァー『哲学講座 第四巻』筑摩書房、1950年3月20日

両次大戦間【「第一部歴史」】『現代世界文学講座・ドイツ編』【編著】新潮社、1950年4月30日【「両次大戦間のドイツ文芸思潮」と改題『見て感じて考える』収録】

美術書についての対話『大学生の読書 何をいかに読むべきか』山根書店、1950年5月5日【改版『学問と教養 何をいかに読むべきか』勁草書房、1953年6月25日、改訂版『学問と教養 何をいかに読むべきか』勁草書房、1958年4月15日】

『手帖』新潮社 1950年6月30日【陸に上って、小市民よ、どこに行く?、暁への挨拶、今、】日

記、汚れた手、ローリング判事への手紙、「国が変つた」、日記、柔術・彩ある反映、はじめのおわり】『昭和の精神史』（講談社、1985年）収録。「国が変つた」を『現代随想全集 19』収録】

『対立を超えて－日本文化の将来－』養徳社 1950年7月25日【シンポジウム：安倍能成、前田陽一、谷川徹三、小宮豊隆、木村健康、渡辺慧】【1 現代日本の精神的状況、2 否定と肯定、3 日本文化の形成過程、4 古い日本と新しい日本、5 日本再建の基盤はどこにあるか、6 日本的立場と世界的立場】

【「上代の彫刻を薦める」】『上代の彫刻』＜日本美術図説 第3＞【出版内容見本＜リーフレット＞】上野直昭著・小川晴暘写真・飛鳥園編、河出書房、【1954年】

『樅の木と薔薇』新潮社、1951年1月31日【『樅の木と薔薇』＜新潮文庫＞新潮社、1957年4月30日】【樅の木と薔薇、交驢、蓮池のほりにて、麦藁帽子、スペインの贗金、空地、昭和十九年の一高、不滅の女たちの会話、ハイド氏の裁判、焼跡の審問官】

『失われた青春』新潮社、1951年2月15日【『失われた青春』＜新潮文庫＞新潮社、1957年4月30日】【失われた青春、幻影、智識人の裏切り？、憑かれた人々、あとがき】

歌舞伎寸感『演劇の本質』＜演劇講座第1巻＞雲の会編、河出書房、1951年12月25日

『光と愛の戦士 人類の進歩につくした人々(二)－』＜日本少国民文庫 14＞新潮社、1951年12月30日

『ビルマの堅琴』＜ともだち・シリーズ 2＞中央公論社、1952年3月30日【ビルマの堅琴(第1話 うたう部隊、第2話 青い鸚哥、第3話 僧の手紙)、あとがき】

進歩思想について『社会と人倫』＜新倫理講座 第4巻＞創文社、1952年8月15日【『見て感じて考える』収録】

「日本人とは何か」について『世界と国家』＜新倫理講座 第5巻＞創文社、1952年9月15日【『見て感じて考える』収録】

『見て感じて考える』創文社、1953年4月15日【『見て・感じて・考える』＜新潮文庫＞新潮社、1957年5月25日】【1 学生事件の見聞と感想、2 門を入らない人々－現在の一つの精神的状況について－、3 心理戦略、4 原爆のこと、5 在米の安倍先生に、1 砂の上にて－文化と肉体－、2 磯、3 国籍、4 すこしきたない話、5 俗論－チャタレイ論議－、1 精神史について、2 進歩思想について、3 「日本人とは何か」について、4 兩次大戦間のドイツの文芸思潮、あとがき】

危機意識と近代批判『危機に立つ近代』＜現代史講座 1＞創文社、1953年6月15日

日本の近代化について【「特集 明治・大正を私はこう見る」】『世界史と日本』＜現代史講座 第3巻＞創文社、1953年8月30日

『市原豊太 竹山道雄 亀井勝一郎集』＜現代随想全集第19巻＞創元社、1954年3月10日【失われた青春、樅の木と薔薇－運命について、焼跡の審問官、「国が変つた」、学生事件の見聞と感想】

未踏の旅『友への手紙 若い世代へ 第二集』NHK 編、宝文館、1954年4月5日

『古都遍歴－奈良－』＜一時間文庫＞新潮社、1954年4月15日【『古都遍歴－奈良』新潮社 1956年6月15日、『古都遍歴－奈良－』新潮社、1969年11月25日】【1 中門、2 塔と釈迦三尊－秩序と呪縛－、3 抽象について－百済観音－、4 宝物殿の諸像－二様の線条－1、5 宝物殿の諸像－二様の線条－2、6 宝物殿の諸像－二様の線条－3、7 玉虫厨子－飛鳥の性格－、8 日本人の空間感覚の変遷、9 夢殿観音－彫刻の平面性について－、10 中宮寺観音、11 国のまほろば、12 丹波市にて－一つの精神共同体－】【10は『まほろばの国を尋ねて』＜日本随筆紀行 第18巻＞(作品社、1987年)、9は小学館編『救世観音』(法隆寺、1997年)抄録】

『業について デダルスの翼』＜現代日本評論選 10＞筑摩書房、1954年6月5日【若い世代(戦中/戦後)、高校生気質、樅の木と薔薇－運命について－、デダルスの翼、知られざるひとへの手紙、パチンコ哲学、進歩主義の負債、東京の堅琴－東京の夜を行く－】[若い世代 戦後をくセレクション I]収録]

現代とは何か[「共同討議 世界史に於ける現代」]『戦後日本の動向』＜現代史講座別巻＞創文社、1954年8月5日[共同討議：上原専祿、林健太郎、丸山眞男、務臺理作、鈴木成高(司会)] [久野収編『現代日本論』＜戦後日本思想大系 15＞(筑摩書房、1974年)収録]

世界と日本－分析と課題－[「共同討議 世界史に於ける現代」]『戦後日本の動向』＜現代史講座別巻＞創文社、1954年8月5日[共同討議：上原専祿、都留重人、鈴木成高、丸山眞男、務台理作、林健太郎(司会)] [白井吉見編『日本の近代』＜現代教養全集 13＞(筑摩書房、1959年)収録]

『精神のあとをたずねて』実業之日本社、1955年9月25日【1 あしおと、2 思い出、3 抵抗と妥協、4 誘われたがっている女、5「ビルマの堅琴」ができるまで、6 二十歳のエチュード、7 文章と言葉、8 砧、9 ベナレスのほとり、10 印度の仏跡をたずねて、あとがき】[9、10を『世界紀行文学全集 第14巻 南アジア編』(修道社、1960年)再録、1、2、3、8、10を『ビルマの堅琴』(偕成社、1965年、1968年)再録、1、2、8、10を『ビルマの堅琴』(ポプラ社、1965年)、1、2を『ビルマの堅琴』(集英社、1969年)再録、1、2、5、8、10を『ビルマの堅琴』(集英社、1973年)に再録、8をくセレクション IV]収録]

児童文学についての一つの感想[「選集によせて」]『少年文学代表選集 1955年版』日本文芸家協会編、光文社、1955年12月15日

『白磁の杯』実業之日本社、1955年12月1日[『白磁の杯』＜角川文庫＞角川書店、1957年8月15日。エスペラント語版『La pokalo el blankdiafana porcelano』tradukis, Zin Kiyosi[神潔], MEROS, 1986年]

『ビルマの堅琴』＜小説文庫＞新潮社、1955年12月15日【ビルマの堅琴(第1話 うたう部隊、第2話 青い鸚哥、第3話 僧の手紙)、あとがき】[『日本の文学 小学6年生』(あかね書房、1957年)抄録(第1話をほぼ収録)]

『昭和の精神史』＜新潮叢書＞新潮社、1956年5月25日【1 はしがき、2 進歩主義の論理、3「上からの演繹」－唯物史観、4 事実からの出発、5 青年将校は天皇によって「天皇制」を仆そうとした、6 主観をもった主体、7 社会科学は一般化し歴史は個体化する、8 軍人の団体精神、9 さらに三つのまぎらわしさ、10「天皇制」の譲歩と宥和、11 国論の一致、12 ファシズムと戦時体制の混同、13 開戦、14 ローリング判事の少数意見、15 東郷被告の場合、あとがき】[5、10を「天皇制と青年将校」と題して、勝部真長編『天皇制』＜現代のエスプリ 45＞(至文堂、1970年9月1日)収録、1～4を中島岳志編『現代への反逆としての保守』＜リーディングス 戦後日本の思想水脈 7＞(岩波書店、2017年)収録]

内面的な苦痛感覚『青春記』修道社、1956年8月25日

Communism and the Intelectuall in Japan『Cultural freedom in Asia』Charles E. Tuttle, 1956

『ヨーロッパの旅』新潮社、1957年6月29日【1 イタリアめぐり、2 スイスにて、3 ベルリンにて、4 オランダの訪問、あとがき】[1、2を『世界紀行文学全集 第六巻 イタリア・スイス編』(修道社、1959年)、4を『世界紀行文学全集 第八巻 ドイツ・オーストリア・オランダ・ベルギー編』(修道社、1960年)収録、3の一部を中島岳志編『現代の反逆としての保守』＜リーディングス 戦後日本の思想水脈 7＞(岩波書店、2017年)収録]

いじめっ子－むしろおとなに読んでいただきます－『子どもに聞かせたいとおきの話 第3集』阿部知二・国分一太郎編、英宝社、1957年12月10日[『五年の学習』13-3、1958年6月1日に掲載]

定評ある世界の古今の名作『新版世界文学全集』全 32 巻[出版内容見本]新潮社、1957 年配本開始
世界文学と翻訳を語る『世界文学大系』全 68 巻[出版内容見本]筑摩書房、1958 年 2 月配本開始[鼎
談：和辻哲郎、中村光夫]

伝統か変革か『現代の思想』<現代教養文庫 194>大島康正編、社会思想社、1958 年 3 月 31 日[座
談会：加藤周一、坂西志保、大島康正]

『昭和の精神史』<新潮文庫>新潮社、1958 年 4 月 15 日【1 はしがき、2 進歩主義の論理、3「上
からの演繹」-唯物史観、4 事実からの出発、5 青年将校は天皇によって「天皇制」を仆そうとした、
6 主観をもった主体、7 社会科学は一般化し歴史は個体化する、8 軍人の団体精神、9 さらに三つ
のまぎらわしさ、10「天皇制」の譲歩と宥和、11 国論の一致、12 ファシズムと戦時体制の混同、
13 開戦、14 ローリング判事の少数意見、15 東郷被告の場合、あとがき】

日本文化の位置『日本文化の伝統と変遷』日本文化フォーラム編、新潮社、1958 年 5 月 30 日[<セ
レクション III>収録]

日本文化の伝統と変遷『日本文化の伝統と変遷』日本文化フォーラム編、新潮社、1958 年 5 月 30
日[シンポジウム：高柳賢三、木村健康、高坂正顕、鈴木成高、西谷啓治、平林たい子、林健太
郎、関嘉彦、大平善梧、河北倫明、唐木順三、石井良助、直井武夫、ハバート・パシン、E・G・
サイデンステッカー、ジョセフ・ロゲンドルフ]

純粹な天分『堀辰雄全集 普及版全六巻』[出版内容見本]新潮社、1958 年 5 月[『堀辰雄研究』<堀
辰雄全集 別巻 2>(筑摩書房、1980 年 10 月 25 日)収録]

堀辰雄君と私『堀辰雄全集月報 第 2 号』新潮社、1958 年 7 月[佐々木基一編『堀辰雄』<現代の
エスプリ 17>(至文堂、1966 年 1 月 1 日)、『堀辰雄研究』<堀辰雄全集 別巻 2>(筑摩書房、
1980 年 10 月 25 日)、『著作集 4』収録]

文化の形態と接触-現代日本の変化を考えるために-『日本文化研究 第一巻』新潮社、1958 年
11 月 20 日

有の立場 初江王(円応寺)『鎌倉の仏像』<河出新書>河出書房新社、1958 年 11 月 31 日

『ビルマの豎琴』<新潮文庫>新潮社 1959 年 4 月 15 日【ビルマの豎琴(第 1 話 うたう部隊、第 2
話 青い鸚哥、第 3 話 僧の手紙)、ビルマの豎琴ができるまで、あとがき】[『ビルマの豎琴』34
刷改版<新潮文庫>(新潮社、1973 年 10 月 15 日)、『ビルマの豎琴』75 刷改版<新潮文庫>(新
潮社、1988 年 6 月 5 日)][75 刷改版を『唐木順三 保田與重郎 亀井勝一郎 竹山道雄 加藤周一 佐
伯彰一 篠田一士 大岡信 山崎正和』<昭和文学全集 28>(小学館、1989 年 6 月 1 日)収録。新潮
文庫版を底本にして『ビルマの豎琴』上・下<Large Print books シリーズ>(埼玉福祉会、1983 年
10 月 10 日)刊]

『ヨーロッパの旅 続』新潮社、1959 年 7 月 15 日【妄想とその犠牲、フランス滞在、ラスコー洞
窟の壁画、あとがき】

『渡辺一夫 竹山道雄 桑原武夫 加藤周一集』<新選現代日本文学全集 34>筑摩書房、1959 年 9 月
15 日【失われた青春、縦の木と薔薇、国籍、幻影、門を入らない人々、夢殿観音、昭和の精神史
(抄)[1~3 のみ]、蓮池のほとりにて、デダルスの翼、磯、砂の上にて、ペナレスのあたり】[『渡
辺一夫 竹山道雄 桑原武夫 加藤周一集』<増補決定版 現代日本文学全集補巻 32>筑摩書房、
1973 年 4 月 1 日]

『ビルマの豎琴』<世界児童文学全集 26>あかね書房、1959 年 9 月 30 日【はじめに、ビルマの豎
琴(第 1 話 うたう部隊、第 2 話 青い鸚哥、第 3 話 僧の手紙)、「ビルマの豎琴」ができるまで】

明治精神の変化『日本文化研究 第八巻』新潮社、1960 年 7 月 10 日

『ビルマの豎琴』普及版<中央公論文庫>中央公論社、1961年9月20日

和辻先生『和辻哲郎全集 全二十巻』[出版内容見本]岩波書店、1961年10月[『和辻哲郎の思ひ出』<非売品>(和辻照、1962年12月26日)、和辻照編『和辻哲郎の思ひ出』(岩波書店、1963年3月1日)収録]

ビルマの豎琴『竹山道雄・住井すえ・吉田甲子太郎集』<少年少女日本文学全集 14>講談社、1962年2月5日[『竹山道雄 住井すえ 吉田甲子太郎』<少年少女日本文学全集 14>講談社、1977年2月10日]

『まぼろしと真実 私のソビエト見聞記』新潮社、1962年4月30日【ソビエト見聞(1モスクワの地図、2消えゆく炎、3人工の楽園、4富はどこに消えるのだろうか?、5クレムリン宮など、6他国のイメージ)、7苦悩するフランス、8台湾から見た中共、9あとがき】[8を<セクション I>、1~4、6を<セクション II>収録]

『剣と十字架—ドイツの旅より—』文藝春秋新社、1963年2月5日【1力と力の世界、2ベルリンに住んで、3古都めぐり、4中世のおもかげ、5カトリック地方、6ダハウのガス室、7人民にとつての東と西、8東の人々、9ドイツ問題解決への提案、10壁がきずかれるまで、11神もいる、悪魔もいる、12あとがき】[1を白井吉見編『新・世界地理』<現代の教養 12>(筑摩書房、1967年)、6、8を『新保守主義』<現代日本思想大系 35>(筑摩書房、1963年12月10日)、1、2、6、7、10~12を<セクション II>収録]

『竹山道雄 亀井勝一郎』<角川版昭和文学全集 30>角川書店、1963年7月15日【ビルマの豎琴、昭和の精神史、白磁の杯】

日本文化の伝統と変遷『日本的なるもの 日本文化の伝統と変遷 2』日本文化フォーラム編、新潮社、1964年1月30日[シンポジウム：高柳賢三、西谷啓治、高坂正顕、林健太郎、ジョセフ・ロゲンドルフ、久保正幡、鈴木成高、平林たい子、坂田吉雄]

『ヨーロッパの旅』<新潮文庫>新潮社、1964年10月5日【1イタリアめぐり、2スイスにて、3妄想とその犠牲、4フランス滞在、5ラスコー洞窟の壁画、あとがき】[1の一部、3の全部、5の大部分を除き<セクション III>収録]

私が接した面『矢内原忠雄全集第22巻 月報 22』岩波書店、1964年12月[「矢内原さんの私が接した面」と改題『著作集 4』収録]

『ビルマの豎琴』<ジュニア版日本文学名作選 11>偕成社、1965年1月[『ビルマの豎琴』<ホーム・スクール版/日本の名作文学 14>偕成社、1968年2月5日]【ビルマの豎琴、あしあと、思い出、抵抗と妥協、砧、インドの仏跡をたずねて】

『京都の一級品—東山遍歴—』新潮社、1965年6月15日【1東福寺まで、2三十三間堂、3南大門・養源院、4智積院・妙法院、5清水への道、6清水寺、7六波羅蜜寺、8いくつかの墨絵、9八坂塔・高台寺など、10八坂神社まで、11八坂神社と知恩院、12南禅寺・金地院など、13永観堂・法然院など、14銀閣寺など、15東山の北の詩境、16黒谷から吉田神社へ、17賀茂神社の方へ、18いくつかの神社、19御所・修学院・大原、あとがき】[17を「神道について」と題して『森』<日本の名随筆 21>(作品社、1984年)、17を<セクション III>収録]

『ビルマの豎琴』<アイドル・ボックス 6>ポプラ社、1965年9月25日【ビルマの豎琴、あとがき、「ビルマの豎琴」ができるまで、あしあと、思い出、砧、インドの仏跡をたずねて】

ビルマの豎琴『戦争の文学 5』東都書房、1965年9月25日

『人間について 私の見聞と反省』新潮社、1966年11月30日【1聖書とガス室、2キリスト教とユダヤ人問題、3ペンクラブの問題、4『竹山道雄の非論理』、5ものの考え方について、6ソウルを訪れて、7高野山にて、8四国にて、9西の果の島、10死について、11人間について、12

あとがき】[10を『ニヒリズム』<戦後日本思想大系 3>(筑摩書房、1968年8月30日)、5を<セクション IV>収録]

『Harp of Burma』tr. by Howard Hibbett,<UNESCO collection of contemporary works>, C.E. Tuttle, 1966[『Harp of Burma』<Tuttle classics>Tuttle Publishing, 2001<英語訳『ビルマの堅琴』>

『ビルマの堅琴』<少年少女日本の文学 23>あかね書房、1968年4月5日【ビルマの堅琴(第1話 うたう部隊、第2話 青いインコ、第3話 僧の手紙)、ラスコー洞窟の壁画(抄)―「ヨーロッパの旅」より―】

『中島健蔵集 桑原武夫集 中野好夫集 竹山道雄集 高橋義孝集 竹内好集』<日本現代文学全集 93>(講談社、1968年4月19日[『中島健蔵・桑原武夫・中野好夫・竹山道雄・高橋義孝・竹内好集』<増補改訂版 日本現代文学全集 93>講談社、1980年5月26日【スイスにて、ベルリンにて、オランダの訪問】]

唐木氏の「無常」『唐木順三全集 第十二巻 月報』筑摩書房、1968年6月(増補版『唐木順三全集 第十二巻 月報』筑摩書房、1982年)収録]

『カラー京都の庭』淡交社、1968年10月13日[「作庭の歴史的系統の概略」を『著作集 8』、「南禅寺」を『古美術読本 3 庭園』<知恵の森文庫>(光文社、2006年)に収録]

『時流に反して 人と思想』文芸春秋、1968年10月15日【縦の木と薔薇、蓮池のほとりにて、磯、若い世代、空地、昭和十九年の一高、学生事件の見聞と感想、門を入らない人々、ベルリンにて、モスクワの地図、白磁の杯、焼跡の審問官、妄想とその犠牲、聖書とガス室、昭和の精神史、あとがき、初稿発表覚え書、主要発表一覧、著訳書一覧】

『明治百年の意義』<講演>三浦高等学校、1968年12月24日

『ビルマの堅琴』<旺文社ジュニア図書館 8>旺文社、1968年【第1話 うたう部隊、第2話 青いインコ、第3話 僧の手紙】

『ビルマの堅琴』<カラー版日本の文学 14>集英社、1969年6月28日【ビルマの堅琴、あしおと、思い出、スペインの贖金】

『二十四の瞳 柿の木のある家 大根の葉 ビルマの堅琴 スペインの贖金』<カラー名作少年少女世界の文学 第29巻 日本編 4>小学館、1970年7月25日【ビルマの堅琴、スペインの贖金】

ビルマの堅琴『ビルマの堅琴 きけわだつみのこえ』<中学生の本棚 24>学習研究社、1970年9月1日【ビルマの堅琴(第1話 うたう部隊、第2話 青い鸚哥、第3話 僧の手紙)、「ビルマの堅琴」ができるまで、あとがき】

『日本人と美』新潮社、1970年11月30日【以下は1~20の小見出し：1(人間の本性についてのあたらしい展望、表象力、ブルターニュの巨石群、メンヒール、ドルメン)、2(巨石文化、ストーンヘンジ、イースター(パーク)島の巨人像、縄文土偶との比較)、3(C14か、全体の関連からか、直接のイメージ、ボッシュとゴヤなど、日本の夢のイメージ)、4(人間は精神をもった生物である、イメージの定着、縄文土偶、イメージは先行する、洞窟と年代)、5(関係なき類似、1性の崇拜、2世界像と成年式、3対応と社会構造)、6(ユングの説、集合的無意識の原像、先史時代から、ジャングルの塊、憑かれた人は救われる、日本の原像を)、7(知覚の仕方の数例、ゲシュタルト、いい「形」、ゲシュタルト・フリー)、8(芸術はかならずしも美しくはない、リートベルク美術館、四つのカテゴリー)、9(暗示芸術、墨絵)、10(竜安寺石庭、一休寺、歴史の変遷、偶然の結果ではなかっただろう)、11(時間の中の点、腹、いくつかの禅系統の芸術の印象)、12(下敷きとしての神道、鳥居、弥生の壺、さり気なく奥深い)、13(ギリシアの神々は暗示しなかった、構成芸術、シナヤアフリカなどで、日本人の構成意欲)、14(さまざまな大作品に比べて、写すことも記すこと

もできない、神魂神社、由来など)、15(神と神々、八重垣神社、アニミズム)、16(出雲大社、大國主命、杵築平野を眺めて)、17(はじめは似ていた、直孤文様、融通、伊勢神宮)、18(玉垣の柵、眩耀、縄文と弥生、志向の原像)、19(逆遠近法、雲霞、まとめ)、20(I、II)【10を「竜安寺石庭」と題して『石』<日本の名随筆 88>(作品社、1990年)収録]

『知識人と狂信』[武藤光朗との共著]<自由選書>自由社、1971年3月15日【罪責—ローマ法皇と天皇の場合、自由のためにアナーキー革命を!、プロボ事件の謎、昼間のたわごと、ゴッドが死に、核が生まれた、時流のファナチズム】[時流のファナチズムを<セレクション I>収録]

『ビルマの堅琴』<アイドル・ブックス 7 ジュニア文学名作選>ポプラ社、1971年4月10日

現代の文明論的考察[「教養特別講義・思想及び宗教コース」]『日本女子大学教養特別講義 第五集(昭和四五年) 日本をみつめるために—世界のなかの日本—』日本女子大学、1971年4月30日

アジアのこころ[1972年2月23日講演要約(於国際看護研修会)]『連帯と協力 国際看護研修会集録』国際看護交流協会、1977年3月25日

『ビルマの堅琴』<ジュニア版日本の文学 14>集英社、1973年7月【ビルマの堅琴、「ビルマの堅琴」ができるまで、あしあと、思い出、砧、インドの仏跡をたずねて】

『乱世の中から 竹山道雄評論集』読売新聞社、1974年2月10日【六百万分の一の確率、私は拷問をした、ジャングルの魂、喫茶店の半時間、最後の儒者、ゴッドの最初の愛、狂信からの自由、パレレンに対する日本側の反駁、天皇制について、南仏紀行、エーゲ海のほとり、リスボンの城と寺院】

ビルマの堅琴『ビルマの堅琴ほか』<少年少女世界の名作 51 日本編 7>小学館、1974年6月25日【第1話 うたう部隊、第2話 青いいんこ、第3話 僧の手紙】

『みじかい命』新潮社、1975年8月20日

『ビルマの堅琴』<偕成社文庫>偕成社、1976年2月【第1話 うたう部隊、第2話 青いインコ、第3話 僧の手紙】

紺屋の白ばかま『百人百話 ことわざにみる日本人の心と姿』池田弥三郎・梅棹忠夫監修、PHP研究所、1976年12月25日

『ビルマの堅琴』<日本の文学 25>金の星社、1981年12月【ビルマの堅琴、ビルマの堅琴ができるまで、あとがき、スペインの贖金】

『昭和の精神史』<竹山道雄著作集 1>福武書店、1983年3月20日【1 昭和の精神史、2 妄想とその犠牲、3 独逸・新しき中世?、4 若い世代、5 ハイド氏の裁判】[1~4を『昭和の精神史』<中公クラシックス>、1、3~5を<セレクション I>、2を<セレクション II>収録]

『スペインの贖金』<竹山道雄著作集 2>福武書店、1983年5月15日【1 スペインの贖金、2 イタリアめぐり、3 南仏紀行、4 スイスにて、5 中世のおもかげ、6 たそがれのパリ女たち、7 ベナレスのあたり、8 西の果ての島、9 高野山にて、10 四国にて、11 私の文化遍歴、12 囀飛】[1、4を『唐木順三 保田與重郎 亀井勝一郎 竹山道雄 加藤周一 佐伯彰一 篠田一士 大岡信 山崎正和』<昭和文学全集 28>(小学館、1989年6月1日)、1、6、8~11を<セレクション III>収録]

『失われた青春』<竹山道雄著作集 3>福武書店、1983年6月15日【1 失われた青春、2 幻影、3 国籍、4 智識人の裏切り?、5 憑かれた人々、6 空地、7 昭和十九年の一高、8 終戦の頃のこと、9 旧制一高の外国人学生たち、10 学生事件の見聞と感想、11 門を入らない人々】[1を『唐木順三 保田與重郎 亀井勝一郎 竹山道雄 加藤周一 佐伯彰一 篠田一士 大岡信 山崎正和』<昭和文学全集 28>(小学館、1989年)、7、10を『昭和の精神史』<中公クラシックス>、1~3、7を<セレクション I>収録]

『桜の木と薔薇』<竹山道雄著作集 4>福武書店、1983年7月15日【1 桜の木と薔薇、2 知られざる人への手紙、3 思い出、4 あしあと、5 蓮池のほとりにて、6 磯、7 川西瑞夫君の追憶、8 二十歳のエチュード、9 三谷先生の追憶、10 麻生先生のこと、11 岩元禎先生、12 鶴林寺をたずねて、13 矢内原さんの私が接した面、14 木村健康さん、15 安倍能成先生のこと、16 一つの秘話、17 最後の儒者、18 亡き神西清君のこと、19 堀辰雄君と私、20 片山敏彦さんの死、21 死について、22 ベンクラブの問題】[5を『唐木順三 保田與重郎 亀井勝一郎 竹山道雄 加藤周一 佐伯彰一 篠田一士 大岡信 山崎正和』<昭和文学全集 28>(小学館、1989年)、6を『別れのとき』<文春文庫 アンソロジー人間の情景 7>(文芸春秋、1993年)、22を<セクション I>、5を<セクション III>、1、2、4、6、21を<セクション IV>収録]

『剣と十字架』<竹山道雄著作集 5>福武書店、1983年8月15日【1 ベルリンにて、剣と十字架(2 力と力の世界、3 ベルリンに住んで、4 ダハウのガス室、5 人民にとっての東と西、6 東の人々)、7 聖書とガス室、8 消えてゆく炎】[2~5、7を<セクション II>]

『北方の心情』<竹山道雄著作集 6>福武書店、1983年9月15日【1 独逸的人間、2 ゲーテに於ける自然と倫理、3 『ファウスト』の夜の場とニーチェ、4 老いたるロッテの悩み、5 ベッチャーネ・フォン・アルニムのこと、6 ワグナーの弟子、7 イブセンの願望、8 希臘にて、9 不滅の風景画、10 デダルスの翼、11 將軍達と「理性の詭計」、12 シュブランガーのこと、13 神韻縹渺、14 パテレンに対する日本側の反駁、15 天皇制について】[11を『唐木順三 保田與重郎 亀井勝一郎 竹山道雄 加藤周一 佐伯彰一 篠田一士 大岡信 山崎正和』<昭和文学全集 28>(小学館、1989年)、11、15を<セクション I>、14を<セクション II>収録]

『ビルマの堅琴』<竹山道雄著作集 7>福武書店、1983年10月15日【ビルマの堅琴、白磁の杯】

『古都遍歴』<竹山道雄著作集 8>福武書店、1983年11月15日【1 古都遍歴-奈良、2 作庭の歴史的系統の概略、3 竜安寺石庭、4 詩仙堂、5 六波羅蜜寺、6 海北友松、7 古都は警戒する、8 日本の肖像芸術、9 神魂神社】[8を『画』<日本の名随筆 23>(作品社、1984年)、5を『仏』<日本の名随筆 46>(作品社、1986年)、5、6、9を<セクション III>収録]

あとがきにかえて『竹山道雄著作集第八巻 月報』福武書店、1983年11月15日

『歴史的意識について』<講談社学術文庫>講談社、1983年12月10日【まえがき、1 昭和史と東京裁判、2 人間は世界を幻のように見る-傾向的集合表象、3 ユダヤ人焚殺とキリスト教、感想文五つ(4 アナール派について-ある歴史学派、5 国体とは、6 二・二六事件に思う、7 エスカレーションという法則、8 昔からの持ち味)、9 人間性の普遍的基準】[1、5を<セクション I>、3を<セクション II>収録]

尊敬する菊池さん『菊池栄一著作集 第3巻 イタリアにおけるゲーテの世界 月報』人文書院、1984年9月

『主役としての近代』<講談社学術文庫>講談社、1984年11月10日【1 新ソフィスト時代、2 春望、3 一つの証言、4 主役としての近代、5 高校生気質、6 焼跡の審問官、7 在米の安倍先生に、万葉集とゲーテは似ている?(8 詩の翻訳について、9 万葉集とゲーテは似ている?、10 初期の蘭学、11 私の読みたい本)、新聞のコラムから(12 ドイツ語の先生、13 新年の鎌倉、14 自分の亡魂、15 猿回しの猿、16 災難は忘れたころ起る、17 学生とフグ、18 夫婦の愛情、19 言論の批判、20 本山の改宗、21 模倣、22 嶋田大将、23 維摩の病氣)、24 みせびらかし、25 異国にはふしぎなことがおこる、26 「声」欄について、27 安倍先生随聞記、28 外国人の日本文化批判、29 カーター大統領のキス、30 ベルリンの第二の壁についての推理、31 一神教だけが高級宗教ではない、32 白隠その他、33 浦上とゴッドの怒り、34 神道の意味について、35 生と死、36 死ぬ前の支度】[2を<セクション I>、31を<セクション II>、4、6、36を<セクション IV>収録]

『尼僧の手紙』<講談社学術文庫>講談社、1985年1月10日【1 寄寓、2 馬鈴薯の花、3 出船、4 日月潭、5 大野俊一君の出征、6 塘沽にて-支那の風土と美、7 北京日記、8 尼僧の手紙、9 鎌倉

礼讃、10 ラスコウ洞窟の壁画、11 童画一絵について、12 高砂族—台湾旅行から帰って、13 台湾から見た中共、14 モスコウの地図、15 ソウルを訪れて】[1 をくセレクション IV>、7、9、15 をくセレクション III>収録]

『ビルマの堅琴』フジテレビ出版、扶桑社(発売)、1985年6月21日【第1話 うたう部隊、第2話 青い鸚哥、第3話 僧の手紙】

『昭和の精神史』<講談社学術文庫>講談社、1985年7月10日【昭和の精神史、手帖】

『ビルマの堅琴』<ポプラ社文庫>ポプラ社、1985年8月【ビルマの堅琴(第1話 うたう部隊、第2話 青いインコ、第3話 僧の手紙)、あとがき、「ビルマの堅琴」ができるまで】

『ビルマの堅琴』<少年少女日本文学館 16>講談社、1986年1月27日<扶桑社版を底本とし中央公論社版を参考とする>

*『緬甸的堅琴』<双子星叢書 389>劉華亭訳、星光出版社、1986年[中国語訳『ビルマの堅琴』]

『唐木順三 保田與重郎 亀井勝一郎 竹山道雄 加藤周一 佐伯彰一 篠田一士 大岡信 山崎正和』<昭和文学全集 28>小学館、1989年6月1日【ビルマの堅琴、將軍達と「理性の詭計」、失われた青春、蓮池のほとりにて、スペインの贖金、スイスにて】

『El arpa de Birmania』trducción del original japonés Fernando Rodríguez-Izquierdo Gavalá, <Clásicos universales núm. 1>, Editorial Universidad de Sevilla, 1989年<スペイン語訳『ビルマの堅琴』>

*『Birmaniako harpa』Bruño Argitaletxea, 1990年<バスク語訳『ビルマの堅琴』>

『ビルマの堅琴』<ポケット日本文学館 9>講談社、1995年7月15日<扶桑社版を底本、中央公論社版を参考とする>

『La harpe de Birmanie』traduit du japonais par Hélène Morita, <Collection fiction étrangère>, Serpent à Plumes, 2002[<Collection Motifs, no 269>, Le Serpent à Plumes, c2006]<フランス語訳『ビルマの堅琴』>

『The scars of war : Tokyo during World War II : writings of Takeyama Michio』ed. and tr. by Richard H. Minear, Rowman & Littlefield Publishers, c2007【Part I. The war : Ichikō in 1944 (1946)、The end of the war (1953)、White pine and rose (1947)、Scars (1949)、Part II. Crisis and challenge : Germany : a new middle ages? (1940)、The younger generation (1945)、Part III. The Tokyo trial : The trial of Mr. Hyde (1946)、Letter to Judge Röling (1949)、Part IV. Turn to the right : The student incident : observations and reflections (1950)、Those who refuse to enter the gate : thoughts on one contemporary frame of mind (1951)】

『ビルマの堅琴』<21世紀版少年少女日本文学館 14>講談社、2009年3月19日

『昭和の精神史』<中公クラシックス>中央公論新社、2011年1月25日【昭和の精神史、独逸・新しき中世、若い世代、昭和十九年の一高、学生事件の見聞と感想】

『昭和の精神史』<竹山道雄セレクション I>藤原書店、2016年10月25日【昭和の精神史、將軍達と「理性の詭計」、ハイド氏の裁判、天皇制について、国体とは、昭和史と東京裁判、昭和十九年の一高、若い世代、春望、独逸・新しき中世?、失われた青春、幻影、国籍、台湾から見た中共、ペンクラブの問題、時流のファナチズム】

『西洋一神教の世界』<竹山道雄セレクション II>藤原書店、2016年12月23日【I 妄想とその犠牲(妄想とその犠牲、『ツァラトストラかく語りき』(全三巻)訳者あとがき)、II 聖書とガス室(聖書とガス室、ユダヤ人焚殺とキリスト教、パテレンに対する日本側の反駁、一神教だけが高級宗教ではない)、III 聖書とガス室(ソ連地区からの難民、剣と十字架 ドイツの旅より(力と力の世界、

ベルリンに住んで、ダハウのガス室、人民にとっての東と西、壁がきずかれるまで、神もいる、悪魔もいる、あとがき)、IV ソビエト見聞(ソビエト見聞(モスクーの地図、消えてゆく炎、人工の樂園、富はどこに消えるのだろうか?、他国のイメージ))】

『主役としての近代』<竹山道雄セレクション IV>藤原書店、2017年3月10日【I 主役としての近代(知られざるひとへの手紙、思い出、あしおと、磯、砧、亡き母を憶う、寄寓、きざあと、樫の木と薔薇—運命について、主役としての近代、焼跡の審問官)、II 単行本未収録コラム集(二等室の乗客、むかしの合理主義—日本人の宗教的無関心の源、歴史と信仰の解明を、ビルマから東パキスタンへ—二つの会議に出席して、憂楽帳(『毎日新聞』1958年)<晩夏、世論尊重、ファッション化?、講師と芸能人>、キリスト教への提言—説得力に欠けはしないか、人権のための人権侵害—恐ろしい”公式の絶対視”、文化自由会議に出席して、石筆(『東京新聞』1961年)<アイヒマンの弁護人、正気、全学連、ふしぎな話、すんでのところ、立て看板、「平和」の正体、朝、原爆の思い出、ソ連の参戦、灯ろう流し>、片山敏彦さんのこと、亡き三谷先生のこと、私の八月十五日—絶望と虚脱のなかに、戦野に捨てられた遺骨へのとむらい—『ビルマの堅琴』、進歩主義の信仰査問—歴史は八月十五日に始まるのか、思うこと(『サンケイ新聞』夕刊、1965~66年)<言論の批判、二十年前、厭戦思想、戦没者追悼式、島田大將、一晚の受難、ローマの宗教会議、季節の推移、仏像のあり方、カトリックが無神論を認めた、平和という言葉、安楽死施設、歴史と幻影、一市民の感想、一市民の判断、模倣、アメリカの反体制インテリ、本山の改宗、はかない人生、歳末、維摩の病氣、黄禍、議会は茶会ではない、緩和も、防衛も>、オランダ通信(『朝日新聞』1966年)<アムステルダムへ、モダン・アート、怒れる若者、プロボ、アンネ・フランクの家、聖書とガス室、解剖の図、ロッテルダム、キリスト教への誤解、風車とチューリップ>、東風西風(『読売新聞』夕刊、1966~67年)<自己批判、マイクの発音、核の拡散防止、うつりかわり、そう一概にはいえない、オランダ、飾り窓の女、怪談、民主主義的手続き、オランダ人の親切、法王の祈り、流行思想、狂信化、地の塩、二・二六の意味、一枚の写真、天皇と法、新一億総ザンゲ、教育勅語、花、亡霊の絶叫、三六と三五〇、追究、核能力、ゴッドの死、洋魂洋才、きっかけ、重臣思想>、甘い態度は捨てよ—大学の存亡かけ戦う時、鎌倉・人口の浸食、アメリカからの「招待」、III 人間について(ものの考え方について—演繹ではなく本質直観を、死について、突然の死—帰るべきところに帰る覚悟、死ぬ前の支度)】

『美の旅人』<竹山道雄セレクション III>藤原書店、2017年5月19日【I 若き日の旅人(スペインの贗金、希臘にて、北京日記)、II 竹山道雄の文化遍歴(蓮池のほとりにて、フランス滞在、たそがれのパリ女たち、若いゲーテの転向、私の文化遍歴、ソウルを訪れて、高野山にて、四国にて、西の果ての島、鎌倉礼讃、タイレのこと)、III 美を感じて考えて語る(暗示芸術、構成芸術、六波羅蜜寺、海北友松、賀茂神社の方へ、神魂神社)、IV 歴史を見る眼(日本文化の位置)】

2. 訳書

- 譚詩／羅馬哀歌／哀歌(二)／書翰／短唱『ゲーテ全集第一巻』改造社、1936年2月19日
- 『従軍日記』[共訳：カロツサ著]＜山本文庫7＞山本書店 1936年6月25日
- ライン、マイン及びネツカ河畔の芸術と歴史的遺品『ゲーテ全集 第十九巻』改造社、1936年8月19日
- バキスの予言／四季『ゲーテ全集 第二巻』改造社、1937年8月20日
- 贈詩抄／題詩抄／初期の詩作抄『ゲーテ全集 第二巻の二』改造社、1938年1月20日
- 『野鴨』[イブセン著]＜岩波文庫＞岩波書店 1938年11月15日
- 『わが生活と思想より アルベルト・シュヴァイツェル自叙伝』白水社、1939年2月6日[『わが生活と思想より アルベルト・シュヴァイツァー自叙伝』＜7版＞白水社、1949年5月1日、『わが生活と思想より』＜シュヴァイツァー著作集 第2巻＞白水社、1956年12月20日、『わが生活と思想より』＜シュヴァイツァー選集 2＞白水社、1961年12月5日、『わが生活と思想より』＜白水Uボックス＞白水社、2011年2月15日]
- 『人形の家』[イブセン著]＜岩波文庫＞岩波書店、1939年3月15日[『人形の家』第16刷改版＜岩波文庫＞岩波書店、1959年1月25日、『人形の家』＜岩波版ほるぷ図書館文庫＞岩波書店、1975年9月1日]
- 『民衆の敵』[イブセン著]＜岩波文庫＞岩波書店 1939年9月5日
- 『幽霊』[イブセン著]＜岩波文庫＞岩波書店 1939年11月10日
- 『ツァラトストラかく語りき』上・中・下[フリードリッヒ・ニーチェ著]＜世界文庫 57、80、84＞弘文堂書房 1941年2月20日、1943年2月20日、1943年10月20日[上巻「後語」、中巻「あとがき」、下巻「あとがき」を「『ツァラトストラかく語りき』(全三巻)訳者あとがき」と題して＜セレクション II＞収録]
- 『混乱と若き悩み』[トマス・マン著]＜世界新名作選集＞新潮社 1941年6月25日【マリオと魔術師、トニオ・クレーガー、混乱と若き悩み】
- 美しき日の回想[ホフマンスタール著]『現代独逸短篇集』片山敏彦編＜現代世界文学叢書 8＞中央公論社、1941年10月10日
- われときみ黄葉のうちを／二人して／収穫月の狂ほしい炎／羅馬の郊外／南国の入江[以上、ゲオルグ作]、秋の日[リルケ作]、五月／イレーネのための子守歌[以上、クラブント作]『独逸近代詩集』片山敏彦編、ぐろりあ・そさえて、1941年10月30日
- 古代民族の自由の没落について[ヨハン・フォン・ミュラー著]『独逸大学の精神』フリッツ・シュトリヒ編、高山書院、1944年1月20日
- 『情熱の形成』＜ゲーテ詩集 II＞育英書院 1944年5月20日【羅馬哀歌、ヴェネチア短唱、献詩、初期の詩、エレギー、譚詩、あとがき】
- 『羅馬哀歌』角川書店、1949年4月30日【羅馬哀歌、ヴェネチア短唱、献詩、初期の詩、エレギー、譚詩、解説】
- 『ツァラトストラかく語りき』＜ニーチェ全集 7＞新潮社、1950年8月25日
- 『力への意志』＜ニーチェ全集 11＞新潮社、1951年3月31日

『若きエルテルの悩み』[ゲーテ著]＜岩波文庫＞岩波書店、1951年4月25日[『若きエルテルの悩み』33刷改版＜岩波文庫＞岩波書店、1978年12月18日、『若きエルテルの悩み』第85刷改版＜岩波文庫＞岩波書店、2010年4月21日]

『善悪の彼岸』＜ニーチェ全集 第8巻＞新潮社、1952年1月30日【善悪の彼岸、道徳の系譜】

『偶像のたそがれ』＜ニーチェ全集第10巻＞新潮社、1952年10月31日[『偶像の黄昏』＜新潮文庫＞新潮社、1958年1月15日]

『ハイジ』上・下[ヨハンナ・スピリ著]＜岩波少年文庫40＞岩波書店、1952年9月15日、1953年7月15日[『ハイジ』＜岩波版ほるぶ名作文庫＞岩波書店、1981年5月25日、『ハイジ』第29刷改版＜岩波少年文庫＞岩波書店、1986年11月13日]

『ツァラトストラかく語りき』上・下＜新潮文庫＞新潮社、1953年1月10日、4月20日[『ツァラトストラかく語りき』50刷改版＜新潮文庫＞新潮社、2007年8月25日]

『ゲーテ詩集(二)』＜岩波文庫＞岩波書店、1953年11月5日[「ツールの王」は『王侯』＜書物の王国 3＞(国書刊行会、1998年)、「コリントの許嫁」は『吸血鬼』＜書物の王国 12＞(国書刊行会、1998年)収録]

『善悪の彼岸』＜新潮文庫＞新潮社、1954年5月15日[20刷改版『善悪の彼岸』＜新潮文庫＞新潮社、1974年9月30日、『善悪の彼岸』48刷改版＜新潮文庫＞新潮社、2008年4月20日]

『マリオと魔術師』[トーマス・マン著]＜角川文庫＞角川書店、1955年3月5日【マリオと魔術師、混乱と稚き悩み】

『ゲーテ詩集(四)』＜岩波文庫＞岩波書店、1957年11月5日

3. 評論など(新聞・雑誌掲載)<723 篇>

1926(大正 15)年

日月潭『箒』1、9月1日<青木晋>[『尼僧の手紙』収録]

1927(昭和 2)年

馬鈴薯の花『虹』2、5月1日[『尼僧の手紙』収録]

寄寓『虹』3、6月1日[『尼僧の手紙』収録]

出船『虹』5、9月1日[『尼僧の手紙』収録]

1928(昭和 3)年

伯林通信『山繭』3-1、2、7、1月1日、2月1日、7月1日【1 NEBENEINANDER、 2 Via Sibirien、
3 一つの見方から】<青木晋>

カフェ・カバレ・カジノー欧羅巴時粧一『山繭』3-3、3月1日<青木晋>

埃及紀行『山繭』3-4、5、4月1日、5月1日<青木晋>

1931(昭和 6)年

独逸的人間『独逸文学研究』6、7月[『北方の心情』『著作集 6』収録]

1935(昭和 10)年

ゲーテのヴェネチア詩抄『アカツキ』10-9、9月1日

国文学研究に一つの喜び—奥津彦重氏「ゲーテ序論」『帝国大学新聞』600、11月25日

1936(昭和 11)年

『神韻縹渺』表情と民族性に就て[「芸術」]『帝国大学新聞』625、5月11日[『著作集 6』収録]

従軍日記抄[訳・カロッサ著]『コギト』53、10月1日

希臘の想出『世代』4、7、9、11、13~17、11月20日、1937年6月1日、12月30日、1938年8月
30日、1939年6月25日、10月10日、1940年4月1日、12月25日、1941年5月15日[「希臘
にて」と改題『著作集 6』収録]

1937(昭和 12)年

詩集「独逸」より[「レルシュの作品」]『エルンテ』8-4、1月25日

木村謹治著「和独大辞典」[「カレントブックス」]『帝国大学新聞』678、6月14日

将軍達と「理性の詭計」、7月[『北方の心情』『著作集 6』収録]

新ソフィスト時代『思想』184、9月1日[『主役としての近代』収録]

*生物の世界像『世代』[8、9月]

*大野俊一君の出征『一高城北会誌』秋[『尼僧の手紙』収録]

不屈の精力 シュブランガー教授著『文化哲学の諸問題』[「書評」]『帝国大学新聞』700、12月20日[「シュブランガーのこと」と改題『著作集 6』収録]

1938(昭和 13)年

塘沽にて 支那の風土と美『帝国大学新聞』742、11月28日[『尼僧の手紙』収録]

1939(昭和 14)年

北京日記『世代』12、2月25日[『尼僧の手紙』収録]

『キュリー夫人伝』[書評]『世代』12、2月25日

吹田教授著近代独逸思想史—精神史としての文学史—『帝国大学新聞』753、2月13日

一九三八年八月二十八日 フランクフルト・アム・マインに於てなされたる演説[訳・ハンス・カロツサ著]『独逸文学』3-1、4月30日

祝祷/髪/灯台[訳詩：ボードレール]『新潮』36-6、6月1日

シュヴァイツァー『アフリカ物語』より[訳]『世代』13、6月25日

イブセンの思想圏—(約一八七五年より一八八六年まで)—『新潮』36-9、9月1日

ゲーテに於ける自然と倫理『ゲーテ年鑑』8、12月20日[『北方の心情』『著作集 6』収録]

1940(昭和 15)年

独逸・新しき中世?『思想』215、4月1日[『著作集 1』収録。英語訳：Germany : a new middle ages? 『The scars of war』]

野上先生を囲む座談会『世代』15、4月1日[座談会：野上豊一郎、原田勇、片山敏彦、大野正夫、谷川徹三]

1941(昭和 16)年

孤独[訳詩・ニーチェ著]『四季』58、6月25日

不滅の風景画—バルカンの想ひ出—『新潮』38-7、7月1日[『希臘にて』『著作集 6』収録]

老いたるロッテの悩み『新潮』38-9、9月1日[『北方の心情』『著作集 6』収録]

1942(昭和 17)年

- 「ファウスト」の夜の場とニーチェ『独逸文学』5・3、1月25日[『北方の心情』『著作集6』収録]
ワグナーの弟子―崇拜から復讐へ『知性』5・2、2月1日[『北方の心情』『著作集6』収録]
ナチス文学思想管見『一橋新聞』343、3月10日
イブセンの願望『演劇』1・2、5月1日[『北方の心情』『著作集6』収録]
尼僧の手紙『向陵時報』143、6月7日[『尼僧の手紙』収録]
ベッチャーネ・フォン・アルニムのこと『新潮』39・11、11月1日[『北方の心情』『著作集6』収録]

1944(昭和 19)年

- 空地『向陵時報』157、5月31日[『失はれた青春』『樅の木と薔薇』『時流に反して』『著作集3』収録]

1945(昭和 20)年

- 若い世代[1945年7月22日第一高等学校寄宿寮全寮晩餐会講演][『失はれた青春』『業について デダルスの翼』『著作集1』収録。英語訳：The younger generation『The scars of war』]

1946(昭和 21)年

- 交驩『世界』2、2月1日[『失はれた青春』『樅の木と薔薇』収録]
失はれた青春『新潮』43・3、3月1日[『失はれた青春』『失われた青春』『昭和批評大系 第三卷(昭和20年代)』(番町書房、1968年3月25日)『著作集3』収録]
イブセンについて[「世界文豪の横顔」]『新女苑』10・4、4月1日
鈴木三重吉の「綴方読本」[「私のすすめる教材」]『日本読書新聞』344、5月1日
一つの証言『週刊朝日』48・21、22、6月2、9日[『主役としての近代』収録]
幻影、初出未詳、6月頃[『失はれた青春』『著作集3』収録]
「文化と倫理」の序[訳：アルベルト・シュヴィツァ著]『世代』1・1、7月1日
デダルスの翼 希臘旅行より[「ギリシア文明と現代」]『真善美』1・7、7月8日[『業について デダルスの翼』『希臘にて』『著作集6』収録]
鴿―戦争責任について『世界』8、8月1日[『失はれた青春』収録]
三十歳台の女たち[「最近女性批判」]『毎日新聞』9月30日[『社会の動き』2、1946年11月15日に転載。「鎌倉の女たち」と改題『失はれた青春』収録]
原始林の聖者―アルベルト・シュワイツェルについて―『新女苑』10・9～11、11・1、10月1日、11月1日、12月1日、**1947年**1月1日
ハイド氏の裁き、1946年10月稿[「ハイド氏の裁判」と改題『樅の木と薔薇』『著作集1』収録。英語訳：The trial of Mr. Hyde『The scars of war』]

蓮池のほとりにて『アララギ』39-11、11月1日[『失はれた青春』『樅の木と薔薇』『世界教養全集 別巻1』(平凡社、1962年)、『時流に反して』『著作集4』収録]

1947(昭和22)年

昭和十九年の一高『向陵時報』160、2月1日[『失はれた青春』『竹山道雄 西脇順三郎 渡辺一夫』<随想全集第7巻>(尚学図書、1970年)、『著作集3』収録。英語訳: Ichikō in 1944『The scars of war』]

ビルマの堅琴『赤とんぼ』2-3、9~12、3-1、2、3月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、1948年1月1日、2月1日【1、2 青い鸚哥 I、3 青い鸚哥 II、4 青い鸚哥 3、5 僧の手紙 1、6 僧の手紙 II、7 僧の手紙 III】[『ビルマの堅琴』(中央公論社、1947年)刊]

本格小説の生れぬ訳『文芸春秋』25-1、1月1日[『失はれた青春』収録]

個人の覚醒『光』3-2、2月1日

わかき世代の力『婦人朝日』2-3、3月1日

樅の木と薔薇—運命について—『新潮』44-4、4月1日[『失はれた青春』『樅の木と薔薇』『業について デダルスの翼』『時流に反して』『現代評論集』<現代日本文学大系 97>(筑摩書房、1973年)、『著作集4』収録。英語訳: White pine and rose『The scars of war』]

若い世代 戦後、4月稿[『失はれた青春』『業について デダルスの翼』収録]

現代フランスの文学開拓者 クールチウス著・大野俊一訳[「読書の頁」]『新女苑』11-8、8月1日

サルトルの嘔吐[「読書の頁」]『新女苑』11-9、9月1日

ヒトラーとの約束『苦楽』2-10、10月1日

素朴な不審『新世代』2-2、10月1日

安部能成氏の「日本文化の性格」[「読書の頁」]『新女苑』11-10、10月1日

主役としての近代[「現代人」]『近代文学』15、11月1日『憑かれた人々』『主役としての近代』収録]

知識人の裏切り?『世代』2-10・11、11月1日[『文芸評論年鑑 昭和二十三年度版』(全国書店、1949年)、『北方の心情』『失われた青春』『著作集3』収録]

高校生気質、11月10日稿[『憑かれた人々』『業について デダルスの翼』『主役としての近代』収録]

春望『向陵時報』161、11月19日[『主役としての近代』収録]

1948(昭和23)年

三谷先生の追憶『独立』1-2、3月1日[『三谷隆正 人・思想・信仰』(岩波書店、1966年)、『著作集4』収録]

哲学流行の弁『文芸春秋』26-4、4月1日

憑かれた人々 ヒトラー狂『婦人朝日』3-4~10、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日[『憑かれた人々』『失われた青春』『著作集3』収録]

先生たちと美風[「学芸」]『毎日新聞』4月12日

あたらしい人間像『時事新報』4月25、26日[『佐世保時事新聞』4月29、30日]

焼跡の審問官『新潮』45-5、5月1日[『憑かれた人々』『樅の木と薔薇』『現代文芸評論集(三)』<現代日本文学全集第96>(筑摩書房、1958年)、『中島健蔵集 桑原武夫集 中野好夫集 竹山道雄集 高橋義孝集 竹内好集』<日本現代文学全集93>(講談社、1968年)、『ニヒリズム』<戦後日本思想大系3>(筑摩書房、1968年)、『時流に反して』『主役としての近代』収録]

小説管見－「野性の誘惑」を読んで－『光』4-6、6月1日

義[「追悼 太宰治の死」]『芸術』3-2、8月1日[『憑かれた人々』、福田恒存編『太宰治研究』<現代作家研究叢書>(津人書房、1948年)、小山清編『太宰治研究』(筑摩書房 1956年)、『近代作家研究アルバム 太宰治』(筑摩書房、1964年)、奥野健男編『太宰治全集 別巻 太宰治研究・参考文献』(筑摩書房、1973年)、『近代作家追悼文集成 32 菊池寛 太宰治』(ゆまに書房、1997年)収録]

読書について『蛍雪時代』18-5、8月1日

ハンガリアに居たころのシューベルト『自由婦人』3-7、8月1日

「人形の家」のノラー名作の女性－『生活文化』9-8、8月1日

手帖 わが生の途のなかばに『新潮』45-12、46-2～4、6、8、9、11、12、12月1日、**1949年**2月1日、3月1日、4月1日、6月、8月1日、9月1日、11月1日、12月1日【連載各回の小見出し：1 状況/資格、2 軌道、3 仮面、4 小市民よ、どこに行く?/暁への挨拶、5 今/日記、6、汚れた手/ローリング判事への手紙、7「国は変った」、8 日記/柔術・彩ある反映、9 はじめのおわり】[『手帖』(新潮社、1950年)刊。「ローリング判事への手紙」の英語訳：Letter to Judge Röling『The scars of war』]

不滅の女たちの会話『婦人公論』[32]-12、12月1日[『憑かれた人々』『樅の木と薔薇』収録]

戦後文学への赤信号－私小説化の危機について－[「学芸」]『朝日新聞』12月5日

1949(昭和24)年

催眠術[「文化」]『報知新聞』2月25日

東京の夜をゆく 或いは東京の堅琴『婦人公論』[33]-3、3月1日[渡邊一夫との共同執筆][『業について デダルスの翼』収録]

きずあと[小説]『心』2-3、3月1日[<セレクション IV>収録][英語訳：Scars『The scars of war』]

機構の強化を望む[「法隆寺壁画を惜しむ(回答)」]『仏教芸術』3、3月30日

生活をもつと合理的に[「青年指導の問題」]『時事新報』4月10日[『佐世保時事新聞』4月16日]

国籍『改造文芸』4、5月5日[『見て感じて考える』『著作集3』収録][ドイツ語訳 Staatsangehörigkeit『Japonica Humboldtiana』vol.13, 2009-10]

【「アンケート 感銘をうけた本・推せんしたい本」]『日本読書新聞』499、7月13日

知られざるひとへの手紙『新女苑』13-8～12、14-1～8、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、**1950年**2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日[『業について デダルスの翼』抄録、『著作集4』収録]

若いゲーテの転向－フランス語から自国語へ－『人間』4-8、8月1日[<セレクション III>収録]

大阪の昼をゆく『婦人公論』[33]-7、8月1日

南原繁著母[「一枚書評」]『日本読書新聞』504、8月17日

私の文化遍歴『文芸往来』3-8、9月1日[『著作集2』収録]

新しい表記法と国語改革『教育復興』2-8、10月1日[7月8日座談会：岩淵悦太郎、土岐善麿、林大、山本有三、藤田貞次]

自由と平和の発見 人間を現実の「現」、で掴む 戦火のかなた イタリア映画『北海道新聞[札幌版]』10月9日[対談：亀井勝一郎]

生き残った人々に希う きけわだつみのこえ[「若き魂の手記」]『日本読書新聞』512、10月12日[『わだつみのこえにちえる 日本の良心』(東大協同組合出版部編・刊、1950年)収録]

1950(昭和25)年

芸術と歴史についての対話『新潮』47-1、1月1日[対談：和辻哲郎]

「三人姉妹」(俳優座 三越劇場)『芸術新潮』1-3、3月1日

コアン『美術手帖』27、3月1日

「私の愛国心 清水幾多郎著愛国心を読んで」『日本読書新聞』537、4月12日

麦藁帽子『中央公論文芸特集』夏季文芸特集号、7月1日[『樅の木と薔薇』収録]

配偶選択学『婦人公論』[34]-7、7月1日

戦後ドイツの文学・思想・青年『人間』5-8、8月1日[座談会：P・シュミート、高橋義孝]

シュワイツェル著野村実訳 水と原生林のはざまにて『日本読書新聞』554、8月9日

スペインの贗金『新潮』47-9、9月1日[『樅の木と薔薇』『世界紀行文学全集 第四巻 イギリス・スペイン・ポルトガル編』(修道社、1959年)、『ビルマの堅琴』<日本の文学 25>(金の星社、1981年)、『著作集2』収録]

読書のすすめ『全国出版新聞』30、11月15日

池田潔著よき時代のよき大学[「読書」]『読売新聞』11月27日

学生事件の見聞と感想『中央公論』65-12、12月1日[『新保守主義』<現代日本思想大系 35>(筑摩書房、1963年12月10日)、『見て感じて考える』『時流に反して』『著作集3』収録。英語訳：The student incident : observations and reflections『The scars of war』]

戦後風潮の分析—アプレ・ゲール—『郵政』2-12、12月1日

少年文学について『図書』14、12月5日

「1951年を私はこう見る 各界の名士にきく」『週刊朝日』55-58・56-1[合併号]、12月31日・1951年1月7日

1951(昭和26)年

すこしきたくない話『新潮』48-1、1月1日[『見て感じて考える』収録]

古典書の解説について『図書』17、2月5日

セーロンの仏僧－読書余録－『新潮』48-6、5月1日

訳者失格『Books』15、5月5日

門を入らない人々－現在の一つの精神的状況について『新潮』48-7、6月1日[『見て感じて考える』
『時流に反して』『竹山道雄 西脇順三郎 渡辺一夫』<随想全集第7巻>(尚学図書、1970年)
収録。英語訳：Those who refuse to enter the gate：thoughts on one contemporary frame of
mind『The scars of war』]

私の読みたい本[「読む人・書く人・作る人」]『図書』21、6月5日[『主役としての近代』収録]

慰めとはげまし この書は孤独によせる頌歌であり偉大な全欧的共同体の英雄曲である S・ツワイク
著 ロマンロラン『日本読書新聞』599、6月27日

「今日の嫌悪(アンケート)」『人間』6-7、7月1日

磯『文学界』[5-7]、7月1日[『見て感じて考える』『時流に反して』『竹山道雄 西脇順三郎 渡辺
一夫』<随想全集第7巻>(尚学図書、1970年)、『著作集4』収録]

「社会の良心と良識」から[「チャタレイ裁判をどう見るか」]『婦人公論』[35]-8、8月1日[「俗論－チャ
タレイ論議－」と改題『見て感じて考える』収録]

二等室の乗客『月刊読売』9-14、8月15日[<セレクションIV>収録]

鎌倉礼讃『芸術新潮』2-9、9月1日[『尼僧の手紙』(講談社、1985年)収録]

或る猫の一生[「随筆」]『ニューエイジ』3-9、9月1日

講和に際して文化を思う たくましき文化を 足りぬ創造への探求『大阪日日新聞』9月6日

1952(昭和27)年

古都巡礼『芸術新潮』3-1～6、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日【1
京都美術館、2古き庭のチチェローネ、3古都は警戒する、4精神の現世化、5統・精神の現世化、
6都会について】[3は『著作集8』収録、5は『名文で巡る京都 国宝の寺1 東山』<seisou おと
なの図書館>(青草書房、2008年)に抄録]

精神史について『新潮』49-1、1月1日[『見て感じて考える』収録]

この深刻な先例 ナチス抬頭の内的的消息知る E・グレイザー著最後の市民 植田敏郎遠藤慎吾訳
『日本読書新聞』628、1月23日

林語堂著『嵐の中の木の葉』『中央公論』67-2、2月1日

葦の言語『新潮』49-4～6、4月1日、5月1日、6月1日【1現代の性格について、2両次大戦間、
3ナチズムについて】

「日本倫理思想史」[「書架」]『[東京大学]教養学部報』10、4月12日

ドイツ語の先生[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』5月27日[『主役としての近代』収録]

右旋回の時流とソ連の批判『心』5-6、6月1日[座談会：安倍能成、大内兵衛、鈴木成高、長与善
郎、和辻哲郎]

日本民族は世界にどう貢献してきたか『改造』33-10、7月15日[座談会：和辻哲郎、井上光貞]

詩情あふれる論評 三好達治著卓上の花『日本読書新聞』656、8月6日

砂の上の人たち—文化と肉体—『新潮』49-9、9月1日[「砂の上にて—文化と肉体—」と改題『見て感じて考える』収録]

精神のあとをたづねて『新女苑』16-10~12、17-1、3~12、18-1~9、10月1日、11月1日、12月1日、**1953年**1月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、**1954年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日【1「読者」へ、2最初の神学、3最初の神学つづき、4思い出、5思い出、6「男もすなる日記といふ物を」、7観念と論理(1)、8観念と論理(2)、9まだそれを知らないうちに決めなくてはならない(1)、10まだそれを知らないうちに決めなくてはならない(2)、11人は世界を幻のように見る、12砂浜の上の幻、13文章について、14砧について、15「ビルマの堅琴」ができるまで、16恋愛について—ある媒酌人の式辞—、17誘われたがっている女、18二十歳のエチュード(1)、19二十歳のエチュード(2)、20抵抗と妥協(1)、21抵抗と妥協(2)、22抵抗と妥協(3)、23足音】1[「あしあと」と改題)、4、5、13[「文章と言葉」と改題)、14[「砧」と改題)、15、17~22は『精神のあとをたづねて』、15は『ビルマの堅琴』<新潮文庫>(新潮社 1959年)、1[「あしあと」と改題)、4、5、18、19は『著作集 4』収録、4、5は<セレクション IV>収録]

チャップリンの「殺人狂時代」を見て『中央公論』67-11、10月1日

心理戦略『婦人公論』[36]-10、10月1日[『見て感じて考える』収録]

災難は忘れたころ起る[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』11月4日[『主役としての近代』収録]

*パチンコ哲学、11月[『業について デダルスの翼』収録]

1953(昭和 28)年

奈良『芸術新潮』4-1~11、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日【1法隆寺の中門、2塔と釈迦三尊—秩序と呪縛—、3抽象について—百済観音—、4宝物殿の諸像—二様の線條—、5宝物殿の諸像 2—二様の線條—、6宝物殿の諸像 3—二様の線條—、7玉虫厨子—飛鳥の性格、8日本人の空間感覚の変遷、9夢殿観音、10中宮寺観音、11国のまほろば】[『古都遍歴—奈良—』新潮社刊。『著作集 8』収録。10は滝井孝作編『大和路』<日本の風土記>(宝文館、1959年4月1日)、6は『名文で巡る国宝の観世音菩薩』<seisou おとなの図書館>(青草書房、2007年)収録]

在米の安倍先生に『心』6-1、1月1日[『見て感じて考える』『主役としての近代』収録]

思想と行動『新潮』50-1、1月1日[座談会：林健太郎、堀田善衛]

“偉大な人間”シュバイツァー博士の横顔『読売新聞』1月3日

新年の鎌倉[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』1月18日[『主役としての近代』収録]

天理教『新潮』50-2、2月1日[「丹波市にて—一つの精神共同体—」と改題『古都遍歴 奈良』収録]

猿回しの猿[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』2月19日[『茶の間』(毎日新聞社、1954年12月10日)、『主役としての近代』収録]

機械と心理[「特輯 原爆時代と文学者」]『文学界』7-3、3月1日[「原爆のこと」と改題『見て感じて考える』収録]

広田弘毅[「学芸 好きな史上の人」]『朝日新聞』3月11日

落首と評論[「学芸 黒船祭にちなんで」]『毎日新聞』4月16日

思想と生涯と時代 的確でうつくしい訳文 D・アレヴィー著ニーチェ 大野俊一訳『日本読書新聞』
691、4月20日

安倍能成を囲む会『心』6-5、5月1日[座談会：安倍能成、大内兵衛、田中耕太郎、辰野隆、小宮
豊隆]

教養のすすめ『[東京大学]教養学部報』21、5月18日

自分の亡魂[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』5月29日[『茶の間』(毎日新聞社、1954年12月10日)、
『主役としての近代』収録]

青春の不安と信仰 宗教的契機としての左翼運動『読売新聞』6月13日

終戦の頃のこと『新潮』50-9、9月1日[『著作集3』収録。英語訳：The end of the war『The scars
of war』]

進歩主義の負債『毎日新聞』9月15日[『業について デダルスの翼』収録]

最後の儒者『心』6-11、11月1日[『乱世の中から』『著作集4』収録]

新しいドイツ書を読んで[「読書日誌」]『新潮』50-11、11月1日<OK

童画 絵について『Books of the world』2-4、11月1日[『The Youth's companion』8-9、1953年
12月に転載、『尼僧の手紙』収録]

世界の光明 シュバイツァー[「学芸」]『北国新聞』11月7日

結婚の悩みについての対話[「特集 夫婦生活の危機」]『婦人公論』37-13、12月1日

1954(昭和29)年

古き美より新しき美へ『芸術新潮』5-1、1月1日[座談会：福田豊四郎、勅使河原蒼風、長谷川三
郎、吉川逸治]

歴史と幻影『新潮』51-1、1月1日

伝統・風流『淡交』8-1、1月1日

私の接したクリスチャン『ニューエイジ』6-2、2月1日

古典美の意味 富永惣一著ギリシア彫刻『日本読書新聞』732、2月8日

事実の真相『日本経済新聞』2月15日

世にも不思議な話?—予断について—『新潮』51-3、3月1日

夫婦の愛情[「学芸」]『新潟日報[夕刊]』3月24日

*夫婦の愛情『山形新聞』月日未詳[『主役としての近代』収録]

むかしの合理主義—日本人の宗教的無関心の源—[「宗教」]『毎日新聞』4月4日[<セレクションIV>
収録]

偏見のなかの日本文化『日本読書新聞』742、4月19日

唯物史観について『心』7-5~7、5月1日、6月1日、7月1日【1、2 流行している論理、3 模写?】

みせびらかし[「童話」]『日本経済新聞』5月23日[『主役としての近代』収録]

初期の蘭学[「名書旧籍」]『新潮』51-6、6月1日[『新潮』93-臨時増刊号<新潮名作選百年の文学>、

1996年7月31日に再録]

歴史と信仰の解明を[「昨日から明日へ わが著作と思索を語る」]『毎日新聞』6月24日[<セレクション IV>収録]

美しい抒情の世界 堀辰雄著大和路・信濃路『日本読書新聞』756、7月26日[「大和路・信濃路」と題して『堀辰雄案内』<堀辰雄全集 10>(角川書店、1965年12月20日)収録]

神話『新潮』51-8、8月1日

白磁の杯[「精神のあとをたづねて」(24)～(31)]『新女苑』18-10、11、19-1～6、10月1日、11月1日、1955年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日[『白磁の杯』(実業之日本社、1955年)刊、『時流に反して』『著作集 7』収録]

某月某日『日本経済新聞』10月22日

*郷土文化『[季刊]真珠』<近畿日本鉄道宣伝課>12、10月

革命といふもの『心』7-11、11月1日[座談会：高坂正顕、鈴木成高、金子武蔵、長与善郎]

五官の放送[「随筆」]『放送文化』9-10、11月1日

1955(昭和 30)年

大和紀行『芸術新潮』6-1～9、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日【1 薬師寺の聖観音—作品のあり方—、2 白鳳、3 薬師寺金堂の三尊—浮彫と光沢—、4 薬師寺の東塔、5 ネグロ人の梯子(一)—方法論についての反省—、6 ネグロ人の梯子(二)—方法論についての反省—、7 東大寺の三月堂、8 憤怒と微笑—代表的把握面—、9 天平の写実—興福寺の八部衆と十大弟子—】

学生とフグ[「茶の間」]『毎日新聞[夕刊]』1月13日[『茶の間 第二集』(毎日新聞社、1955年)、『主役としての近代』収録]

論理の修練 感覚と常識と誠実を[「学芸」]『毎日新聞』2月10日

ビルマの印象 古代と現代が接する国『朝日新聞』3月2日

東洋のルネッサンスのために—アジア文化自由会議報告—[「学芸」]『朝日新聞』3月5日

ビルマから東パキスタンへ 二つの会議に参加して[「学芸」]『毎日新聞』3月8日[<セレクション IV>収録]

センチメンタリズムに就いて『心』8-4、4月1日[座談会：和辻哲郎、鈴木成高、金子武蔵、長与善郎]

南方の仏教国を巡って『在家仏教』14、5月1日[対談：中村元]

インド—その幻想と現実—『婦人公論』40-5、5月1日[「ベナレスのあたり」と改題『精神のあとをたづねて』『著作集 2』収録]

綿密な探求の跡 森蘊著「桂離宮の研究」[「読書」]『読売新聞』6月18日

文学と宗教『心』8-7、7月1日[座談会：和辻哲郎、高坂正顕、長与善郎]

十年の後に—あれは何だったのだろうか?—『心』8-8～12、8月1日【1～3】、9月1日【4～6】、10月1日【7、8】、11月1日【9、10 天皇制の譲歩と宥和】、12月1日【11、12 ファシズムと戦時体制の混同、13 開戦、14 ローリング判事の少数意見、15 東郷被告の場合】[『昭和の精神

史』と題して刊(新潮社、1956年)。『時流に反して』『著作集1』『昭和の精神史』(講談社、1985年)収録。初出から1、2を『昭和批評大系 第四巻(昭和30年代)』(番町書房、1968年8月25日)収録、1～5を[「特別企画 昭和史論争 歴史における主体性とは何か』』『月刊世界政経』3-6、1974年6月1日に転載]

他画像[「昭和二十年の自画像」]『新潮』52-8、8月1日

ナチス夫妻『日本経済新聞』9月1日

野村実著『人間シュヴァイツェル』[「書評」]『図書』72、9月5日

健康さん[「心の友」]『新潮』52-10、10月1日

ソ連地区からの難民『毎日新聞』12月15、16日[<セレクションII>収録]

1956(昭和31)年

チューリヒより[「随想」]『心』9-1、1月1日

イタリアの旅『新潮』53-1、2、4、1月1日、2月1日、4月1日[「イタリアめぐり」と改題『ヨーロッパの旅』(新潮社、1957年)、『ヨーロッパの旅』<新潮文庫>(新潮社、1964年)、『著作集2』収録]

ボンより[「二つの手紙」]『心』9-3、3月1日

巴里より[「随想」]『心』9-4、4月1日

足りない日本の文化宣伝『朝日新聞』5月16日【(上)肩身狭い思いばかり、(下)邦人自身も再認識を】

ロンドンより[「随想」]『心』9-7、7月1日

文明の害毒[「随想」]『心』9-9、9月1日

ヨーロッパ通信[「随想」]『心』9-11、11月1日

ほしい知性と真実 十二月の論壇 総合雑誌評[「文化」]『産経時事』12月26日

1957(昭和32)年

ヨーロッパの幸福な国—スイス紀行—『新潮』54-1、1月1日[「スイスにて」と改題『ヨーロッパの旅』(新潮社、1957年)、『ヨーロッパの旅』<新潮文庫>(新潮社、1964年)、『著作集2』収録]

二月号の論調 総合雑誌評[「文化」]『産経時事』1月24日

中共と東西ドイツ『心』10-2、2月1日[座談会：長与善郎、谷川徹三、鈴木成高、大内兵衛、和辻哲郎、安倍能成]

オランダの訪問『心』10-2、2月1日[『ヨーロッパの旅』(新潮社、1957年)、『中島健藏集 桑原武夫集 中野好夫集 竹山道雄集 高橋義孝集 竹内好集』<日本現代文学全集93>(講談社、1968年)、『著作集2』収録]

たそがれのバリ女たち『婦人公論』42-2、2月1日[『著作集2』収録]

東ベルリンを見る『文芸春秋』35-2～4、2月1日、3月1日、4月1日【1あるソ連地区の表情、2、東ドイツの難民たち、3昂然たるドイツ人とその思想】[「ベルリンにて」と改題『ヨーロッパの旅』

(新潮社、1957年6月29日)、『中島健藏集 桑原武夫集 中野好夫集 竹山道雄集 高橋義孝集 竹内好集』<日本現代文学全集 93>(1968年4月19日)、白井吉見編『世界への目』<現代教養全集 2>(筑摩書房、1958年10月20日)、『時流に反して』『著作集 5』収録]

麻生先生のこと『[東京大学]教養学部報』57、2月21日[『著作集 4』収録]

三月号の論調 総合雑誌評－興味ある河野一郎氏の親共的意見－[「文化」]『産経時事』2月24日

ヨーロッパの裏おもて『キング』33-4、4月1日[座談会：原田義人、矢内原伊作]

亡き神西清君のこと『新潮』54-5、5月1日[『著作集 4』収録]

世界に於ける日本文化の位置『心』10-6、6月1日[座談会：鈴木成高、唐木順三、和辻哲郎、安倍能成]

タイレのこと[アルベルト・タイレ「西欧から見た禅芸術－東洋美術の「空無」－への添書き]『芸術新潮』8-6、6月1日[<セレクション III>収録]

亡き母を憶う『新女苑』21-6、6月1日[<セレクション IV>収録]

外国の認識『學燈』54-6、6月5日

*若き日の模索『高校時代』4-3、6月

自由を検討する『心』10-7、7月1日[座談会：田中耕太郎、和辻哲郎、鈴木成高、安倍能成]

*進歩と反動『高校時代』4-4、7月

万葉集とゲーテは似ている?『図書』94、7月10日[『主役としての近代』収録]

*信念について『高校時代』4-5、8月

スイスの農業を『家の光』33-9、9月1日

日本の都市をもっとよくする計画『心』10-9、9月1日[座談会：高山栄華、横山光雄、五十嵐醇三、秀島乾]

三都ものがたり－精神のバランスを失った妄想－[「若い河」]『週刊読売』16-37、9月1日

日本文化を論ず『新潮』54-9、9月1日[「日本文化の位置」と改題、日本文化フォーラム編『日本文化の伝統と変遷』(新潮社、1958年5月30日)収録、同書から『日本思想の構造』勝部真長編<現代のエスプリ 29>(至文堂、1969年9月1日)に再録]

破壊と信仰の交錯－浦上に旅して－[「若い河」]『週刊読売』16-41、9月29日

歴史と現代の危機『心』10-10、10月1日[座談会：鈴木成高、林健太郎、和辻哲郎、安倍能成]

あまりにも場末的な...外国人からみた日本の欠点[「若い河」]『週刊読売』16-46、10月27日

歴史における日本の先進性『中央公論』72-13、11月1日[座談会：梅棹忠夫、鈴木成高、林健太郎]

人間精神の崩壊『芸文春秋』35-11、36-1~4、11月1日、1958年1月1日、2月1日、3月1日、4月1日【1 ナチスのユダヤ人大量虐殺事件について、2 妄想とその犠牲・ユダヤ人、3 伍長ヒットラーの妄想と毒ガス、4 殺人交響楽の指揮者、5 ヒューマニズムなき天才】[「妄想とその犠牲」と改題『ヨーロッパの旅』『時流に反して』『著作集 1』収録]

信念をまげぬ力 故ベツオルト先生のこと[「若い河」]『週刊読売』16-50、11月24日

娯楽文化について『心』10-12、12月1日[座談会：高坂正顕、唐木順三、西谷啓治、大島康正、鈴木成高][唐木順三編『思想の饗宴』(国際日本研究所、1969年2月15日)収録]

自由の弱点－若い映画人との対話から－[「若い河」]『週刊読売』16-55、12月29日

1958(昭和33)年

より住みよい都市を『中央公論』73-1、1月1日[座談会：芦原英了、浜口隆一、浅田孝、芦原義信]

高砂族－台湾旅行から帰って－[「若い河」]『週刊読売』17-4、1月26日[『尼僧の手紙』(講談社、1985年)収録]

台湾から見た中共『心』11-3、6、8、12、3月1日、6月1日、8月1日、12月1日[『まぼろしと真実』『尼僧の手紙』(講談社、1985年)収録]

感情論は引下がるべし－政治評論の二つの欠点－[「若い河」]『週刊読売』17-10、3月2日

日本人と公共心 “遠慮の美德”だけでは不足[「若い河」]『週刊読売』17-14、3月30日

生れかけている都市美[「創刊百号記念随筆特集－戦後日本の芸術界 其の復活と反省」]『芸術新潮』9-4、4月1日

都市についての雑感『市政』7-4、4月15日

“沈黙”をなつかしむ シャベるということについて[「若い河」]『週刊読売』17-19、4月27日

手帖『新潮』55-5～10、12、56-1～7、9、11、57-1、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、12月1日、**1959年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、9月1日、11月1日、**1960年**1月1日【1 フランス滞在記、2 フランス滞在記、3 フランスの苦悩、4 教育学界の異常、5 パリの窓の中、6 復活祭の旅、7 ラスコウ洞窟、8 ラスコウ洞窟の謎、9 ラスコウの驚異、10 ラスコウ洞窟にて、11 どこから来て、どこへ行く、12 生きていることの不思議、13 ペンクラブの問題、14 『竹山道雄の非論理』、15 高野山にて、16 四国にて、17 喫茶店の半時間】[1、2、3、5、6 を「フランス滞在」、7～10 を「ラスコー洞窟の壁画」と改題『ヨーロッパの旅』、臼井吉見編『探検・発掘の記録』<現代教養全集17>(筑摩書房、1960年)、『尼僧の手紙』(講談社、1985年)収録、13～16 を『人間について』、17 を『時流に反して』収録]

核兵器時代－”平和への道”に五つの立場[「若い河」]『週刊読売』17-23、5月25日

いじめっ子『五年の学習』13-3、6月1日[阿部知二・国分一太郎編『子どもに聞かせたいとおきの話 第3集』(英宝社、1957年)から収録]

思想は流行する 批判抜きで熱情を燃やす日本人[「若い河」]『週刊読売』17-28、6月22日

日本の肖像芸術[「特集 顔」]『芸術新潮』9-7、7月1日[『画』<日本の名随筆23>(作品社、1984年)、『著作集8』収録]

平和攻勢下の日本『心』11-7、7月1日[座談会：安倍能成、鈴木成高、長与善郎、田中耕太郎]

日本の自然主義[「学芸 宇宙線」]『毎日新聞』7月19日

若い人たちの挫折[「若い河」]『週刊読売』17-33、7月27日

「心」グループ批判を読んで『心』11-8、8月1日[座談会：安倍能成、鈴木成高、和辻哲郎、谷川徹三、武者小路実篤][『保守の思想』<戦後日本思想大系7>(筑摩書房、1972年)抄録]

もっと正確に考えたい『週刊読書人』238、8月25日

純粹味覚運動[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月1日

- 勤評問題と論理[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月8日
- 晩夏[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月15日[<セクション IV>収録]
- アナウンス[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月22日
- 明治中葉の復古風調の一見本[「伝統芸術の復活を支える思潮」]『淡交』12-10、9月25日
- 享楽の今昔[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』9月29日
- アルジェリア問題と日本の現状『心』11-10、10月1日[座談会：安部能成、林健太郎、鈴木成高、高坂正顕、和辻哲郎]
- 世論尊重[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月6日[<セクション IV>収録]
- 批評と感想[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月13日
- 漢字制限のために[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月20日
- ファッション化?[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』10月27日[<セクション IV>収録]
- 静かな諧調[「特集 ゴッホ展を観て」]『芸術新潮』9-11、11月1日
- 良識の発言『心』11-11、11月1日
- 講師と芸能人[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月3日[<セクション IV>収録]
- 感情論[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月10日
- ゆとり[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月17日
- 都市[「憂楽帳」]『毎日新聞[夕刊]』11月24日
- 良識は反動ではない『文芸春秋』36-13、12月1日[対談：林健太郎]

1959(昭和34)年

- 世論と良識『婦人公論』44-1、1月1日[『成人の書 1960年版』(成人の書刊行会編・刊、1959年12月15日)収録]
- ドイツ人民の意思 難民の統計が示すもの[「文化」]『東京新聞[夕刊]』1月17日
- 浸透[12月9日校長研究協議会講演要旨(於お茶の水女子大学)]『教育委員会月報』10-10、1月
- われわれの偏向[「きのう・きょう」]『読売新聞[夕刊]』3月12日
- 信仰の芸術—法隆寺献納国宝展—『芸術新潮』10-4、4月1日
- 批評精神について『心』12-4、4月1日[座談会：高坂正顕、西谷啓治、鈴木成高、唐木順三、大島康正]
- キリスト教への提言 説得力に欠けはしないか[「文化 キリスト教プロテスタント宣教百年」]『産経新聞』5月20日[<セクション IV>収録]
- アジア諸国の瞥見—東畑精一君を囲んで—『心』12-6、6月1日[座談会：東畑精一、和辻哲郎、嘉治隆一、田中耕太郎、安倍能成]
- カーテンの彼方を語る『心』12-8、8月1日[座談会：波多野乾一、渡邊善一郎、楊覺勇、嘉治隆一]
- われわれの二つの欠点『学校経営』4-9、9月1日

日本の中立は可能か『心』12-10、10月1日[座談会：藤山愛一郎、林健太郎、渡邊善一郎、安倍能成]

ビール飲まないでも[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月2日

秋の夜[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月9日

谷川さんへの返事[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月16日

火災ビン人[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月23日

テレビの首相[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月30日

運命と啓示[訳：ロマノ・グアルディニ 著]『ソフィア』8-3、10月

テミアの古代文字[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月6日

ホット[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月13日

日本に知られていないこと[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月20日

「通じる」論理[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月27日

日本の美感『自由』1、4、12月1日、1960年3月1日【1 暗示芸術、2 構成芸術】[<セレクション III>収録]

真崎教授[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月4日

人権のための人権侵害 恐ろしい“公式の絶対視”『朝日新聞』12月10日[<セレクション IV>収録]

表情[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月11日

さんまい境[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月18日

全学連[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月25日

1960(昭和 35)年

現代のモラルを探索する『心』13-1、1月1日[座談会：高坂正顯、西谷啓治、金子武蔵、鈴木成高、唐木順三][西谷啓治編『思想のシンポジウム(座談)』<灯影撰書 2>(一灯園灯影舎、1985年)収録]

首相[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月8日

田中惣五郎著「北一輝」納得できぬ独断的視点 唯物論はファシズムの台頭を説明できるか『日本改造法案』[「読書」]『東京大学新聞』110、1月13日

現代の体験[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月15日

人間の判断[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月22日

FBI ものがたり[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月29日

明治のはじめ頃『心』13-2、2月1日[座談会：柳田国男、安倍能成、和辻哲郎、嘉治隆一]

“知識人の責任”とはなにか『自由』3、2月1日[座談会：江藤淳、平野謙、林健太郎、吉本隆明][『文学の流れの中で』<江藤淳全対話 1>(小沢書店、1974年5月30日)収録]

グロムイコ[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』2月7日

基地と平和[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』2月14日

- 東ベルリンの太陽族[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』2月21日
- 卍[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』2月28日
- 教祖『心』13-3、3月1日
- 学生の政治運動について『心』13-3、3月1日[座談会：高坂正顯、唐木順三、鈴木成高、和辻哲郎、安倍能成]
- 都市設計[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』3月6日
- アデナウアーの頑固[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』3月13日
- 瑞泉寺[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』3月20日
- 衣装と思想[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』3月27日
- アデナウアー首相のこと[「学芸」]『毎日新聞』3月27日
- “13階段への道”におもう『自由』5、4月1日[対談：ロゲンドルフ]
- 『私は信じていた』『新潮』57-5、4月1日
- 不可触民[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』4月3日
- 使い分け[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』4月10日
- 街頭の広告放送[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』4月17日
- 国民投票[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』4月24日
- 安保改訂をめぐつて『心』13-5、5月1日[座談会：平澤和重、渡邊善一郎、嘉治隆一、安倍能成]
- 西独政府の訴え[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』5月1日
- 安保[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』5月8日
- 外側からつかむ人物評伝 アラン・バロック 大西尹昌訳『アドルフ・ヒトラー』(I・II)[「本 批評と紹介」]『朝日ジャーナル』2-20、5月15日
- オトナのなげき[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』5月15日
- 国民的おいめ[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』5月22日
- 退化[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』5月29日
- 日本の青年の態度—三月二十六日に IPI の報告部会での報告—『心』13-6、6月1日
- Present - Day Japanese Youth(現代日本の青年)[「英文読物」]『The Youth's companion』15-3、6月1日
- 警官導入[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』6月5日
- ある協力者[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』6月12日
- 意見のもちよう[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』6月19日
- 社会心理の病理学[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』6月26日
- 世界に於ける日・独の立場『心』13-7、7月1日[座談会：J・ロゲンドルフ、渡邊善一郎、安倍能成]
- 西の果の島『自由』8、7月1日[『人間について』『著作集2』収録]

文化自由会議に出席して『朝日新聞』7月3、4日[<セクション IV>収録]

時代はうつる[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』7月3日

ドイツ人はこう見ている 日本の国会と新安保反対闘争[「学芸」]『毎日新聞』7月8日

王塚古墳[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』7月10日

だらしの有無[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』7月17日

暴力的言論[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』7月24日

連想[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』7月31日

ケルンにて[「通信」]『心』13-9、9月1日

Rebirth of the castles[「The Castle and Japan」]『This is Japan』8<1961年版>、9月[日本語訳を「古城」と題して、斎藤寅郎編『こんにちは日本』<ドリーム新書7>(文理書院ドリーム出版、1967年10月1日)収録]

フルダにて[「通信」]『心』13-10、10月1日

1961(昭和36)年

ドイツの傷跡[「文化」]『東京新聞[夕刊]』1月27、28日【㊤恥じて心おののく 迫られたナチス時代の清算、㊦痴愚と悲惨の代償 映画「わが闘争」の中の恐怖】

言論の自由と規制『思想の科学[第4次]』27、3月1日[討論：関嘉彦、磯野誠一、永井道雄]

苦悩するフランス(一)『自由』3-3、3月1日[次号掲載文も含めて「苦悩するフランス」と題して『まぼろしと真実』収録]

フランスの波瀾(二)『自由』3-4、4月1日[前号掲載文も含めて「苦悩するフランス」と題して『まぼろしと真実』収録]

テロとデモ『自由』3-4、4月1日[座談会：木村健康、関嘉彦][『自由』50-11、2008年11月1日に再掲載]

モスクーの地図『新潮』58-4、4月1日[『まぼろしと真実』『時流に反して』『ソ連と東欧諸国』<世界の旅5>(中央公論社、1962年)、『竹山道雄 西脇順三郎 渡辺一夫』<随想全集第7巻>(尚学図書、1970年)、『尼僧の手紙』(講談社、1985年)収録]

有刺鉄線の都会『文芸春秋』39-4、4月1日[「力と力の世界」と改題『剣と十字架』『著作集5』収録]

狂信の遺産 アイヒマン裁判をめぐって『朝日新聞』4月5、6日

根強い“仏至上”思想 本格化したらおそろしい[「アルジェリアの反乱」]『朝日新聞』4月23日

ソ連警見そのほかー竹山道雄氏を囲んでー『心』14-5、5月1日[座談会：前田陽一、鈴木成高、安倍能成]

消えてゆく炎『新潮』58-5、5月1日[『まぼろしと真実』『著作集5』収録]

放談千夜 随筆寄席『随筆サンケイ』8-5、5月1日[座談会：辰野隆、渋谷秀雄、林麟、徳川夢声]

革命はその子をすてるー現代史の弾痕ベルリンから遥かなる島国を想うー『文芸春秋』39-5、5月1日[「ベルリンに住んで」と改題『剣と十字架』『著作集5』収録]

- 誤測[「石筆」]『東京新聞』5月7日
- アイヒマンの弁護人[「石筆」]『東京新聞』5月14日[<セクション IV>収録]
- すすんで身のあかしを[「石筆」]『東京新聞』5月21日
- 正気[「石筆」]『東京新聞』5月28日[<セクション IV>収録]
- 日本の美西洋の美『淡交』15-6、6月1日[対談：千宗興]
- 原爆を造るみみず『文芸春秋』39-6、6月1日[「古都めぐり」と改題『剣と十字架』収録]
- 全学連[「石筆」]『東京新聞』6月4日[<セクション IV>収録]
- ふしぎな話[「石筆」]『東京新聞』6月11日[<セクション IV>収録]
- 盆踊り[「石筆」]『東京新聞』6月18日
- 中空の交通網[「石筆」]『東京新聞』6月25日
- 倫理のあらわれ方『心』14-7、7月1日
- すんでのところ[「石筆」]『東京新聞』7月2日[<セクション IV>収録]
- 密告[「石筆」]『東京新聞』7月9日
- 立て看板[「石筆」]『東京新聞』7月16日[<セクション IV>収録]
- 「平和」の正体[「石筆」]『東京新聞』7月23日[<セクション IV>収録]
- 朝[「石筆」]『東京新聞』7月30日[<セクション IV>収録]
- 夏の夜ばなし インテリとノイローゼ『自由』3-8、8月1日[座談会：千谷七郎、木村健康]
- リバイバル『随筆サンケイ』8-8、8月1日
- 原爆の思い出[「石筆」]『東京新聞』8月6日[<セクション IV>収録]
- ソ連の参戦[「石筆」]『東京新聞』8月13日[<セクション IV>収録]
- 灯ろう流し[「石筆」]『東京新聞』8月20日[<セクション IV>収録]
- 新語[「石筆」]『東京新聞』8月27日
- 足で書かれた宣言ードイツの難民問題の背景ー『経済往来』13-9、9月1日
- 再び再軍備について『心』14-9、9月1日[座談会：長谷川才次、渡辺善一郎、安倍能成]
- 大正の精神史『自由』3-9、10、9月1日、10月1日[座談会：安倍能成、勝本清一郎、唐木順三]
- 人工の楽園『新潮』58-9～11、9月1日、10月1日、11月1日[『まぼろしと真実』収録]
- ベルリン問題の底にあるもの『文芸春秋』39-9、9月1日[「人民にとっての東と西」と改題『剣と十字架』収録]
- 沈黙の中の真実ー東ドイツ人への同情ー『文芸春秋』39-10、10月1日[「東の人々」と改題『剣と十字架』『著作集 5』収録]
- 片山敏彦さんのこと『朝日新聞』11月1日[<セクション IV>収録]
- 日本は自信喪失というけれどー戦後のショックをどう解したらよいかー『経済往来』13-11、11月1日[座談会：邱永漢、サイデンステッカー]

社会主義は追い出せない『文芸春秋』39-11、11月1日[「ドイツ問題解決への提案」と改題『剣と十字架』収録]

なぜ目を閉じ耳を塞ぐのか『文芸春秋』39-12、12月1日[「壁がきずかれるまで」と改題『剣と十字架』収録。初出を『文芸春秋』70-2、1992年2月1日、『常識の立場』<文春学芸ライブラリー>(文芸春秋、2014年10月20日)再録]

死の意味ー人生について『自由』3-12、4-1、2、4、5、12月1日、**1962年**1月1日、2月1日、4月1日、5月1日[「死について」と改題『人間について』『著作集4』収録。連載第1回を『自由』26-8、1984年8月1日に転載]

片山敏彦の世界[「片山敏彦追悼」]『心』14-12、12月1日

片山敏彦さんの死『新潮』58-12、12月1日[『著作集4』収録]

天皇制ファシズムは実在せず[「激動の昭和史再発掘」]『世界と日本』1-8、12月10日[対談：中村菊男]

ヨーロッパの問題、日本の印象[「文化」]『産経新聞[夕刊]』12月13、16日[対談：コラール教授]

狂った時代の産物 能吏から犯罪人への道[「アイヒマン判決に思う」]『朝日新聞』12月16日

1962(昭和37)年

今上陛下の真面目を語る『世界と日本』2-1、1月10日[座談会：入江相政、中村菊男、藤樫準二]

富はどこに消えるのだろうか?『新潮』59-2、2月1日[『まぼろしと真実』収録]

泉と菩提樹『文芸春秋』40-2、2月1日[「中世のおもかげ」と改題『剣と十字架』『著作集2』収録]

各国の愛国心『国防』10-7、3月1日

クレムリン宮など『新潮』59-3、3月1日[『まぼろしと真実』収録]

聖き葡萄酒の国 なぜ人間は悪魔になれる?『文芸春秋』40-3、3月1日[「カトリック地方」と改題『剣と十字架』収録]

他国のイメージ『新潮』59-4、4月1日[『まぼろしと真実』収録]

祖国の栄光[「今月の言葉」]『婦人公論』47-4、4月1日

地獄の跡を見る ダハウのユダヤ人収容所の印象『文芸春秋』40-4、4月1日[「ダハウのガス室」と改題『剣と十字架』『著作集5』収録]

天皇制の変質ー明治・大正・昭和の天皇制ー『自由』4-5、5月1日[討議：中村菊男、原敬吾、鈴木成高、久山康、角田順、松本三之介、河上民雄、平林たい子、高柳賢三]

まず事実を確かめよ 言葉の操作で判断する前に[「著者と一時間」]『朝日新聞』5月20日

西欧・ソ連を中心としてー林健太郎氏を囲んでー『心』15-6、6月1日[座談会：林健太郎、長谷川才次、高坂正顯、安倍能成]

力が格闘する国『文芸春秋』40-6、6月1日[「神もいる、悪魔もいる」と改題『剣と十字架』収録]

カギ十字を裁くー「ニュールンベルグ裁判」を観て『自由』4-7、7月1日[座談会：林健太郎、関嘉彦、村瀬興雄]

岩元禎先生 古武士的な精神力 スパルタ式のドイツ語[「私の先生」]『朝日新聞[夕刊]』7月16日[『著

作集 4 』収録]

中国人 S 君のこと[「随想」]『解説政府の窓』6-18[通巻 163]、9 月 15 日

現代日本の思想『自由』4-10、10 月 1 日[討議：石田一良、大島康正、鈴木重信、関嘉彦、中村光夫、林健太郎、福田恒存]

久しぶりの安定感 冷静になってきた人々[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10 月 14 日

現代社会と自由－創刊三周年座談会－『自由』4-12、12 月 1 日[座談会：木村健康、関嘉彦、平林たい子、林健太郎]

異国にはふしぎなことがおこる 人種とそして宗教と[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12 月 23 日[『主役としての近代』収録]

1963(昭和 38)年

君主制と民主主義『心』16-1、1 月 1 日[座談会：田中耕太郎、宮沢俊義、武者小路実篤、安倍能成]

東京のゲルニカ『芸術新潮』14-2、2 月 1 日

建築技術の進歩『心』16-2、2 月 1 日[座談会：竹山謙三郎、谷口吉郎、安倍能成]

京都の一級品『芸術新潮』14-3～12、15-1～11、3 月 1 日、4 月 1 日、5 月 1 日、6 月 1 日、7 月 1 日、8 月 1 日、9 月 1 日、10 月 1 日、11 月 1 日、12 月 1 日、**1964 年**1 月 1 日、2 月 1 日、3 月 1 日、4 月 1 日、5 月 1 日、6 月 1 日、7 月 1 日、8 月 1 日、9 月 1 日、10 月 1 日、11 月 1 日【1 東福寺まで、2 三十三間堂、3 南大門・養源院、4 智積院・妙法院、5 清水への道、6 清水寺、7 六波羅蜜寺、8 いくつかの墨絵、9 八坂塔・高台寺など、10 八坂神社まで、11 八坂神社と知恩院、12 南禅寺・金地院など、13 永観堂・法然院など、14 銀閣寺など、15 東山の北の詩境、16 黒谷から吉田神社へ、17 賀茂神社の方へ、18 いくつかの神社、19 御所・修学院・大原、20 妙蓮寺から大徳寺へ、21 大徳寺の塔頭】[7、8(「海北友松」と改題)、15(「詩仙堂」と改題)は『著作集 8』に収録]

アルベルト・シュヴァイツァー『心』16-4、4 月 1 日[座談会：野村実、浅井真男、杉山好、下村寅太郎]

天皇制について『新潮』60-4、4 月 1 日[『乱世の中から』『著作集 6』収録、「今月の言葉」(『祖国と青年』93、1986 年 6 月 1 日)に抄録]

東洋と西洋の相互理解『心』16-5、5 月 1 日[座談会：E・ライシャワー、前田陽一、高木八尺、安倍能成]

聖書とガス室『自由』5-7～10、7 月 1 日、8 月 1 日、9 月 1 日、10 月 1 日[『人間について』『時流に反して』『著作集 5』収録]

鶴林寺をたずねて『心』16-11、11 月 1 日[『著作集 4 』収録]

人間的社会環境を－老人の問題－『月刊保険評論』15-14、12 月 1 日

1964(昭和 39)年

言論の責任『自由』6-1、1 月 1 日

競争し繁栄しそれから...[「文化」]『読売新聞』1 月 3 日

六百万分の一の確率—ある天才学生の話『新潮』61-2、2月1日[『乱世の中から』収録]

亡き三谷先生のこと『朝日新聞』2月14日[『三谷隆正 人・思想・信仰』(岩波書店、1966年)、<セクション IV>収録]

ヨーロッパ人の謎『自由』6-3、4、3月1日、4月1日[座談会：石田英一郎、会田雄次][『石田英一郎対談集 文化とヒューマニズム』<筑摩叢書>(筑摩書房、1970年)収録]

日本の理想『読売新聞[夕刊]』3月27、28、30、31日、4月3日【1理想に二つの面“心情”“実行”を区別せよ、2自虐のよろこび 戦後にみる安易な感情論、3政治的な幻影 先進国にも暗い一面がある、4正しい論理をもっとよく事実を凝視して、5期待をもって われわれがめざす目標】[「普遍的な美德」と改題、読売新聞社文化部編『日本の理想』(春秋社、1966年)収録、同書から『竹山道雄 西脇順三郎 渡辺一夫』<随想全集第7巻>(尚学図書、1970年)収録]

田中耕太郎君を囲んで『心』17-5、5月1日[座談会：田中耕太郎、嘉治隆一、安倍能成]

短夜 世界を語る『心』17-8、8月1日[鼎談：安倍能成、林健太郎]

私の八月十五日 絶望と虚脱のなかに『朝日新聞』8月15日[<セクション IV>収録]

ビルマの堅琴 戦野に捨てられた遺骨へのとむらい[「私の戦争文学」]『読売新聞[夕刊]』8月26日[<セクション IV>収録]

人間について『新潮』61-9~12、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日[『人間について』収録]

罪責—ローマ法王と天皇の場合『心』17-11、11月1日[『知識人と狂信』収録]

1965(昭和 40)年

人間について『在家仏教』130、1月1日[『在家仏教』438、1988年12月に再録]

都市美について考える ローマ・パリ・東京『芸術新潮』16-4、4月1日

南ベトナムの情勢『心』18-4、4月1日[座談会：安倍能成、秦正流、久住忠男]

歴史は8月15日に始るのか 進歩主義の信仰査問[「文化 明治百年と戦後二十年」]『朝日新聞[夕刊]』4月5日[<セクション IV>収録]

キリスト教とユダヤ人問題—多津木慎氏の教えを乞う—『自由』7-5、5月1日[『人間について』収録]

伝統と近代 自立した活力の日本 調和へ主体性ある処理を『読売新聞』5月3日

東欧諸国の話をきく『心』18-6、6月1日[座談会：早川勝、気賀健三、安倍能成]

創価学会はファッションか『自由』7-8、8月1日

言論の批判[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』8月5日[『主役としての近代』、<セクション IV>収録]

二十年前[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』8月12日[<セクション IV>収録]

厭戦思想[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』8月19日[<セクション IV>収録]

戦没者追悼式[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』8月26日[<セクション IV>収録]

京都学派と戦争[「一月一考」]『日本』8-9、9月1日

- 島田大将[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』9月2日[「嶋田大将」と改題『主役としての近代』、<セクション IV>収録]
- 一晩の受難[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』9月9日[<セクション IV>収録]
- ローマの宗教会議[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』9月16日[<セクション IV>収録]
- 季節の推移[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』9月30日[<セクション IV>収録]
- 大東亜戦争と日本の知識人たち—京都学派・和辻哲郎—『心』18・10、10月1日[座談会：大島康正、古川哲史]
- 仏像のあり方[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月7日[<セクション IV>収録]
- カトリックが無神論を認めた[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月14日[<セクション IV>収録]
- 平和という言葉[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月21日[<セクション IV>収録]
- 安楽死施設[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』10月28日[<セクション IV>収録]
- ソクラテスの境地[「ずいひつ」]『潮』65、11月1日
- ソウルを訪れて『自由』7・11、11月1日[『人間について』『尼僧の手紙』(講談社、1985年)収録]
- 歴史と幻影[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月4日[<セクション IV>収録]
- 一市民の感想[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月11日[<セクション IV>収録]
- 一市民の判断[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月18日[<セクション IV>収録]
- 模倣[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』11月25日[『主役としての近代』、<セクション IV>収録]
- 大衆運動と戦後思想『自由』7・12、12月1日[座談会：木村健康、関嘉彦、林健太郎、福田恒存、武藤光朗]
- アメリカの反体制インテリ[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月2日[<セクション IV>収録]
- 本山の改宗[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月9日[『主役としての近代』、<セクション IV>収録]
- はかない人生[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月16日[<セクション IV>収録]
- 歳末[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』12月23日[<セクション IV>収録]

1966(昭和 41)年

- 石田英一郎著「東西抄」会田雄次著「日本文化の条件」[「私の書評」]『自由』8・1、1月1日
- 維摩の病氣[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月6日[『主役としての近代』、<セクション IV>収録]
- 黄禍[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月13日[<セクション IV>収録]
- 議会は茶会ではない[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月20日[<セクション IV>収録]
- 緩和も、防衛も[「思うこと」]『産経新聞[夕刊]』1月27日[<セクション IV>収録]
- 戦戦と知識人の動向『自由』8・2、2月1日[座談会：高柳賢三、林健太郎、中山治一、高橋正雄、中村菊男、鈴木成高、一又正雄、原敬吾]

唐木順三著「無常」[「私の書評」]『自由』8-2、2月1日

遠藤周作著「沈黙」ホフフート著「神の代理人」[「私の書評」]『自由』8-3、3月1日[『沈黙』の書評は「神の沈黙」についてと改題、遠藤周作『沈黙』(新潮社、1966年)付録『長編小説「沈黙」の問題点ー私は「沈黙」をこう読んだー』、『遠藤周作文学全集2月報』(新潮社、1996年)収録]

突然の死 帰るべきところに帰る覚悟[「文化」]『朝日新聞[夕刊]』3月18日[<セクションIV>収録]

大東亜戦争と日本の知識人たち(二)ー河合栄治郎・西田幾多郎ー『心』19-4、4月1日[座談会:木村健康、大島康正、鈴木成高]

バテレンに対する日本側の反駁[文責在記者]『在家仏教』145、4月1日

高階秀爾著「現代美術」江上波夫著「日本美術の誕生」土門拳他著「日本人の原像」[「私の書評」]『自由』8-4、4月1日

動物はどこまで人間か『自由』8-4、4月1日[座談会:内田亨、桑原万寿太郎、林寿郎]

鎌倉の魅力『国文学 解釈と鑑賞』31-6<4月臨時増刊号>、4月5日[貫達人・三山進編『鎌倉・歴史と美術』至文堂、1966年8月15日]

クアラ・ランプールの旅『自由』8-5、6、5月1日、6月1日

強烈な個性の“非常時男”ー安倍能成をいたむー『読売新聞[夕刊]』6月7日

ものの考え方についてー演繹ではなく本質直観をー『自由』8-7、7月1日[『人間について』収録。ドイツ語訳:Über Art und Weise des Denkens und Urteilens Über Art und Weise des Denkens und Urteilens『KAGAMI』4-3、1966]

大東亜戦争と日本の知識人たち(三)『心』19-7、7月1日[座談会:田中耕太郎、安倍能成、嘉治隆一]

高山氏の安倍能成観[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』7月6日

確かなこと[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』7月13日

自己批判[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』7月20日[<セクションIV>収録]

マイクの発音[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』7月27日[<セクションIV>収録]

安倍先生随聞記[「安倍能成追悼」]『心』19-8、8月1日[『主役としての近代』収録]

ドゴール[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』8月3日

現代の日本とドイツ[講演]『自治研修』72、8月10日

核の拡散防止[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』8月10日[<セクションIV>収録]

アジア理解[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』8月17日

うつりかわり[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』8月24日[<セクションIV>収録]

解けたタブー[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』8月31日

大東亜戦争と日本の知識人たち(四)ー戦時中の左翼ー『心』19-9、9月1日[座談会:林健太郎、江藤淳]

オランダの街頭所見[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』9月7日

オランダの三不思議[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』9月14日

- ドゴールの演説[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』9月21日
- オランダの新流行[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』9月28日
- そう一概にはいえない[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』10月5日[<セレクション IV>収録]
- オランダ通信『朝日新聞』10月7~9、11~16、19日【1 アムステルダムへ、2 モダン・アート、3 怒れる若者、4 プロボ、5 アンネ・フランクの家、6 聖書とガス室、7 解剖の図、8 ロッテルダム、9 キリスト教への誤解、10 風車とチューリップ】[<セレクション IV>収録]
- オランダ[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』10月12日[<セレクション IV>収録]
- 飾り窓の女[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』10月19日[<セレクション IV>収録]
- いまのヨーロッパ[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』10月26日
- 模索する一日本人の心をー『心』19-11、11月1日[座談会：高坂正顕、木村健康、鈴木成高][西谷啓治編『思想のシンポジウム 2 日本の思想風土』<灯影撰書 8>(一灯園灯影舎、1986年)収録]
- 怪談[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』11月2日[<セレクション IV>収録]
- 今のフランス[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』11月9日
- マドリードの町かどで[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』11月16日
- メルド[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』11月23日
- 三階の世界[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』11月30日
- リスボンの城と寺院『自由』8-12、12月1日[『乱世の中から』収録]
- 白い結婚[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』12月7日
- ヒットラーの私生活[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』12月14日
- 民主主義の手続き[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』12月21日[<セレクション IV>収録]
- 東西のジャーナリズム[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』12月28日

1967(昭和 42)年

- 今のヨーロッパ[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』1月4日
- オランダ人の親切[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』1月11日[<セレクション IV>収録]
- 周恩来[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』1月18日
- ヨーロッパの欲求不満『読売新聞[夕刊]』1月20、21日【上 自由諸国でみたその一面、下 内攻する気分反米がはげ口】
- ソ連はどう出る?[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』1月25日
- 空想の軍略[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』2月8日
- 法王の祈り[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』2月15日[<セレクション IV>収録]
- 流行思想[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』2月22日[<セレクション IV>収録]
- 警察官と秩序ー西洋のおまわりさんから学ぶものー『旭の友』21-3、3月1日
- 警察官と秩序『自警』49-3、3月1日

- バテレンに対する日本側の反駁『自由』9-3、3月1日[『乱世の中から』『著作集6』<セレクションII>収録]
- 狂信化[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』3月1日[<セレクションIV>収録]
- 地の塩[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』3月8日[<セレクションIV>収録]
- 二・二六の意味[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』3月15日[<セレクションIV>収録]
- 一枚の写真[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』3月22日[<セレクションIV>収録]
- 天皇と法[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』3月29日[<セレクションIV>収録]
- サンゾム著「西欧世界と日本」[「私の書評」]『自由』9-4、4月1日
- 中国人の謎『自由』9-4、4月1日[座談会：石田英一郎、会田雄次、村松暎]
- 新一億総ザング[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』4月5日[<セレクションIV>収録]
- 国民形成[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』4月12日
- 教育勅語[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』4月19日[<セレクションIV>収録]
- 花[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』4月26日[<セレクションIV>収録]
- 会田雄次著「日本文化の条件」他[「私の書評」]『自由』9-5、5月1日
- 亡霊の絶叫[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』5月10日[<セレクションIV>収録]
- 三六と三五〇[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』5月17日[<セレクションIV>収録]
- 追究[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』5月24日[<セレクションIV>収録]
- 核能力[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』5月31日[<セレクションIV>収録]
- 原敬吾著「戦後の精神史」山内大介著「アメリカ感傷批評」[「私の書評」]『自由』9-6、6月1日
- ゴッドの死[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』6月7日[<セレクションIV>収録]
- 洋魂洋才[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』6月14日[<セレクションIV>収録]
- きっかけ[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』6月21日[<セレクションIV>収録]
- 重臣思想[「東風西風」]『読売新聞[夕刊]』6月28日[<セレクションIV>収録]
- “花”『心』20-7、7月1日[座談会：西谷啓治、高坂正顕、鈴木成高、唐木順三][唐木順三編『思想の饗宴』(国際日本研究所、1969年2月15日)収録]
- 日本人の比例感覚[「グラビア解説」]『批評』8、7月5日
- 自由と平和についての夢想[「文化」]『東京新聞[夕刊]』7月14、15日【㊤中ソは解放の権化か、㊦先験的独断にすぎる】
- *あちらこちらのお巡りさん『平安』7月
- 横山大観画業の盛衰[「フットライト」]『芸術新潮』18-8、8月1日
- 私は拷問をした『新潮』64-8、8月1日[『乱世の中から』収録]
- 時流のファナチズム『自由』9-9、9月1日[『知識人と狂信』収録]
- 和魂洋才か洋魂洋才か[「外の世界から受けとったもの・拒んだもの」]『Energy』4-4、10月1日

安倍能成先生を偲ぶ『心』20-10、10月1日[座談会：麻生磯次、嘉治真三、田中隆尚、市原豊太]

現代の人類学—どこまで人間の探求は可能なのか—『自由』9-10、10月1日[座談会：石田英一郎、泉靖一][『石田英一郎対談集 文化とヒューマニズム』<筑摩叢書>(筑摩書房、1970年)収録]

1968(昭和43)年

日本人と美『芸術新潮』19-1～12、20-1～8、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、**1969年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日【連載各回の小見出し：1(人間の本性についてのあたらしい展望、表象力、ブルターニュの巨石群、メンヒール、ドルメン)、2(巨石文化、ストーンヘンジ、イースター(パーク)島の巨人像、縄文土偶との比較)、3(C14か、全体の関連からか、直接のイメージ、ボッシュとゴヤなど、日本の夢のイメージ)、4(人間は精神をもった生物である、イメージの定着、縄文土偶、イメージは先行する、洞窟と年代)、5(関係なき類似、1性の崇拜、2世界像と成年式、3対応と社会構造)、6(ユングの説、集合的無意識の原像、先史時代から、ジャングルの塊、憑かれた人は救われる、日本の原像を)、7(知覚の仕方の数例、ゲシュタルト、いい「形」、ゲシュタルト・フリー)、8(芸術はかならずしも美しくはない、リートベルク美術館、四つのカテゴリー)、9(暗示芸術、墨絵)、10(竜安寺石庭、一休寺、歴史の変遷、偶然の結果ではなかっただろう)、11(時間の中の点、腹、いくつかの禅系統の芸術の印象)、12(下敷きとしての神道、鳥居、弥生の壺、さり気なく奥深い)、13(ギリシアの神々は暗示しなかった、構成芸術、シナヤアフリカなどで、日本人の構成意欲)、14(さまざまな大作品に比べて、写すことも記すこともできない、神魂神社、由来など)、15(神と神々、八重垣神社、アニミズム)、16(出雲大社、大国主命、杵築平野を眺めて)、17(はじめは似ていた、直孤文様、融通、伊勢神宮)、18(玉垣の柵、眩輝、縄文と弥生、志向の原像)、19(逆遠近法、雲霞、まとめ)、20 補遺(I、II)] [『日本人と美』(新潮社、1970年)刊。10を「竜安寺石庭」と題して、14を「神魂神社」と題して『著作集8』収録]

[「原子力空母 寄港こう考える」]『朝日新聞』1月17日

感情論で解決できぬ「核兵器現存」の中で平和探求を[「声」]『朝日新聞』2月4日

ゴッドが死に、核が生れた[「特集現代を考える—今日の焦点」]『自由』10-3、3月1日[『知識人と狂信』収録]

「ビルマのたわごと」『自由』10-4、4月1日[「昼間のたわごと」と改題『知識人と狂信』収録]

「ビルマの堅琴」論争の真相『フォト』15-8、4月15日[対談：長谷川才次]

週刊日記 ある四月の七日間『週刊新潮』13-16、4月20日

日本人の宗教心『東京本願寺報』83、5月5日

*「声」欄について『国民協会新聞』6月1日[『主役としての近代』収録]

不満学生交換委員会『心』21-6、6月1日

オランダ プロボ事件の謎[「特集世界の青年 不満と反抗の世代」]『自由』10-6、6月1日[『知識人と狂信』収録]

憲法を守る反体制[「文化」]『読売新聞[夕刊]』6月18、19日【(上)民主主義と全体主義、(下)議会外ゲリラと新聞】

日本文化を考える『自由』10-8、8月1日[対談：石田英一郎][『石田英一郎対談集 文化とヒューマニズム』<筑摩叢書>(筑摩書房、1970年)収録]

明日の日本を考える『校成』19-9、10、9月1日、10月1日[座談会：和田耕作(司会)、庭野日敬、林健太郎、関嘉彦]

暴力と現代社会『自由』10-10、10月1日[座談会：エドワード・ルーリー、林健太郎]

私の言葉『週刊新潮』13-41、10月12日

"自然"『心』21-11、11月1日[座談会：高坂正顕、西谷啓治][西谷啓治編『思想のシンポジウム 2 日本の思想風土』<灯影撰書 8>(一灯園灯影舎、1986年)収録]

文部大臣 大いに語る[「特集・大学の革命」]『自由』10-11、11月1日[座談会：灘尾弘吉、鈴木重信]

甘い態度は捨てよ 大学の存亡かけ戦う時『日本経済新聞』11月12日[<セレクション IV>収録]

“譲歩は抜本的解決にならぬ”[談]『読売新聞』11月22日

狂信からの自由『自由』10-12、12月1日[『変革期のなかの自由』<自由選書>(自由社、1971年3月15日)、『乱世の中から』収録]

田中美知太郎全集 第一巻 混乱期の自由な魂 清新な文体で冷徹な思索[「読書」]『読売新聞』12月3日

幻が破れた年 未来のビジョンを「論理－妄想－悪魔」の解放『読売新聞[夕刊]』12月27日

1969(昭和 44)年

百七十三時間の真実『自由』11-1、1月1日[対談：林健太郎][『変革期のなかの自由』<自由選書>(自由社、1971年3月15日)収録]

不法行為禁止の規則を[「私は考える 大学問題の解決－アンケート－」]『自由』11-1、1月1日

機動隊導入やむを得ぬ[談]『読売新聞』1月10日

最近の時事問題について－竹山道雄氏にきく－『時の動き』13-2、1月15日[きく人：弘津恭輔]

大学紛争の背後にあるもの 一切に先行する超経験的信仰[「現代日本の展望」]『言論人』59、1月18日

東大紛争を考える『心』22-3、3月1日[座談会：高坂正顕、鈴木成高]

ゴッドの最初の愛[連載第1回は「神の最初の愛」]『自由』11-3～7、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日[『乱世の中から』収録]

日本は守るもの[「日本の防衛...私にも一言」]『丸』22-5、4月1日

フランス大統領選あとさき[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』6月11～13日【精気あふれるパリ、全身反抗心の学生、幻の世界へあこがれ】

フランスの占領と解放 “自分の勝利”うたう 25年前の記録映画[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』6月16日

第五共和国の清算表 飽かれた”超人”ドゴール[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』6月18日

原水爆とセックス 次の戦争の恐怖から性に逃避[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』6月25日

硬化とデカダンス ”過去の威信”に反抗する若者たち[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』6

月 30 日

壁 “自由”と“抑圧”を分け延々と[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』7月2日

変容する地中海 秩序の象徴から米ソ対抗の場へ[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』7月31日

"偶然"『心』22-8、8月1日[座談会：高坂正顕、西谷啓治、鈴木成高、唐木順三]

ギリシヤの山河 かけ足でみる観光ルート[「ヨーロッパの旅から」]『読売新聞[夕刊]』8月11日

近代的組織化に遅れ 親切だが...乱雑[「トルコの旅から」]『読売新聞[夕刊]』8月21日

豊かな歴史 古代都市跡の立派な水道に感心[「トルコの旅から」]『読売新聞[夕刊]』8月27日

熱狂の時代と異常性格者『自由』11-10、10月1日[座談会：中村菊男、杉森久英]

エーゲ海のほとり『自由』11-11、12、12-1、2、11月1日、12月1日、1970年1月1日、2月1日
[『乱世の中から』収録]

「あなたの意見 わたしの意見」『番組センター』6、11月10日

「自由のためにアナーキー革命を!」[「特集 現代の自由について」]『自由』11-12、12月1日[『知識人と狂信』収録]

1970(昭和 45)年

自由の自制—署名記事で責任をもて—『言論人』83、1月1日

人間回復の道 たくましく生きよう[「70年の対話」]『読売新聞』1月5日[対談：手塚富雄]

主体的に“与える”精神[「変革の思想」とは]『読売新聞[夕刊]』2月18～20日【空想ばかりが乱舞、松陰は生命をかけた、正気な人間の中から】[『変革の思想とはなにか』(読売新聞社、1970年8月30日)収録]

田宮高麿の思想『自警』52-6、6月1日

ジャーナリズムと学生問題[「教育随想」]『教育ジャーナル』9-6、8月1日

現代の若い動き—田宮高麿の思想—[5月16日龍門社総会講演要旨、文責在記者]『青淵』257、8月1日

国防について『心』23-9、9月1日[座談会：中曾根康弘、入江通雅、林健太郎]

石田英一郎著「石田英一郎対談集」[「私の書評」]『自由』12-9、9月1日

今時の若い者『心』23-11、11月1日

*偶感『ザ・ガード』11月

ヨーロッパと日本『自由』12-11、11月1日[対談：西尾幹二][『ヨーロッパの個人主義』<西尾幹二全集第1巻>(国書刊行会、2012年)収録]

ジャングルの魂『新潮』67-11、11月1日[『乱世の中から』収録]

直情すぎた“行動の美学”[三島事件への談]『読売新聞』11月25日

人間の幸福とは何か『読売新聞』12月26、27日【(上)歴史の外にある感覚、(下)性格や環境で個人差】

1971(昭和 46)年

現代の狂信 歴史を動かすものはなにか?『言論人』113、1月1日

大正昭和の文化人『心』24-2、2月1日[座談会：鈴木成高、市原豊太、林健太郎、唐木順三]

三島由紀夫と事件の背景[「特集 三島由紀夫の死」]『自由』13-2、2月1日[座談会：林健太郎、杉森久英、麻生良方]

その動機と影響[「三島由紀夫の死」]『新潮』68-3、2月1日[『近代作家追悼文集成 42 三島由紀夫』(ゆまに書房、1999年)収録]

アンチコロニアリズムとエスカレーション『心』24-7、7月1日

『ユダヤ人と日本人』『自由』13-7、7月1日[座談会：村松剛、H.バッシン、M.トケイヤー]

鎌倉・人口の侵食[「風景論」]『読売新聞[夕刊]』7月15日[<セクション IV>収録]

文化を作る[「シリーズ討論会 人間と環境」]『技術と経済』5-8、8月1日[討論会：渥美和彦、佐伯誠道、関野克]

「幻想」の共産圏訪問記『諸君!』3-8、8月1日[鼎談：佐伯彰、鈴木俊子]

終戦後の混沌とした文教事情『心』24-10、10月1日[座談会：田中耕太郎、日高第四郎、嘉治真三]

冬の雲『心』24-11、11月1日

ありし日の美少年たち[「文学七十年」]『新潮』68-12、11月1日

1972(昭和 47)年

日本人の国際感覚『心』25-1、1月1日[座談会：高山岩男、鈴木成高、林健太郎]

みじかい命[小説]『新潮』69-1~6、8、70-1~5、7~12、71-1~10、1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、8月1日、**1973年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日、11月1日、12月1日、**1974年**1月1日、2月1日、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日、10月1日
[『みじかい命』(新潮社、1975年)刊]

忍苦した勇氣と知恵に敬意[「横井さんの帰国に思う」]『朝日新聞』2月3日

昭和を語る『自由』14-4、4月1日[対談：林房雄][『自由』50-9、2008年9月1日に再録]

榛名の雪を染めて—そのよって来たところは遠い『自由』14-5、5月1日

中村菊男著『嵐に耐えて—昭和史と天皇』[「書評」]『自由』14-6、6月1日

*ニュースのほitori『ジェットトラベル』11-9、9月1日[「南仏紀行 一 ニュースのほitori」と題して『乱世の中から』『著作集 2』収録]

*ニュース・グラス・ヴァンス『ジェットトラベル』11-10、10月1日[「南仏紀行 二 南仏の古いまち」と題して『乱世の中から』『著作集 2』収録]

*ピレネーの壁画洞窟『ジェットトラベル』11-12、12月1日[「南仏紀行 三 ピレネーの壁画洞窟」と題して『乱世の中から』『著作集 2』収録]

1973(昭和 48)年

ヨーロッパにおける対日警戒心の構造『自由』15-1、1月1日[座談会：平川祐弘、佐瀬昌盛]
ヨーロッパと私『自由』15-3～7、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日
静かに行きたい[「近況」『朝日新聞』4月9日
材木座海岸から小坪へ[「インタビュー構成 私の鎌倉 散歩道」]『旅』47-5、5月1日
感動を呼ぶ竖琴のひびき『月刊・かまくら春秋』38、5月25日[対談：林美智子]
ひとつの昭和史 日本陸軍とユダヤ人『自由』15-6、6月1日[座談会：高島辰彦、河村愛三]
巫術?[「今月のことば」]『マスコミ・ガイド』2-11、11月

1974(昭和 49)年

木村健康さん[「木村健康追悼」]『心』27-3、3月1日[『著作集4』収録]
*今の世界の思想の動き『管理者研修資料』18、3月
夢幻から醒めた精神で 悪魔的妄想にかられた情熱の本体はアナーキー[「民社党をはげます会発起人に聞く」]『革新』45、4月1日
道徳教育・この人と語る『道徳教育』162、6月1日[聞き手：園田桂子]
評者に答える[「ぶっくれびゅう 竹山道雄著『乱世の中から』」]『論展』1-3、7月1日
ヨーロッパのたそがれ—マルローの発言をめぐって『心』27-9、9月1日[座談会：鈴木成高、高山岩男]
オンス[「会員通信」]『文芸家協会ニュース』279、10月
五十二〇=二五『心』27-11、11月1日

1975(昭和 50)年

憑依『新潮』72-3、3月1日
人口過剰社会の高等教育『論展』2-2、4月1日[対談：勝田吉太郎]
インドにはまだ残っている—「憑依」つづき—『新潮』72-6、6月1日
雲上無聊『季刊おおぞら』9、7月1日
クレタ文明考『ジェットトラベル』14-9、9月1日

1976(昭和 51)年

闇のなかのハンカチ—「憑依」つづき—『新潮』73-1、1月1日
*名作のころ・ビルマの竖琴『ピラライフ[Villa Life]』[2]、12月

1977(昭和 52)年

私の人間学『新潮』74・2、2月1日

1978(昭和 53)年

時の勢 無意識で流動するが方向は変りにくいもの[「随想」]『言論人』371、3月5日

社会的空想『日本文化会議月報』74、6月1日

1979(昭和 54)年

ユダヤ人焚殺とキリスト教『言論人』404～406、2月5、15、25日【㊤検討さるべき民族絶滅の背景、
㊤異端征伐と隣人への愛に分裂した精神、㊤ルッターの提案がナチス政策に直結】[『歴史的意識
について』収録]

東京裁判は誤りだった 裏切られた平和とヒューマンイズムの原則『言論人』424、8月25日

逆コースにならなかつたら 東独の戦後史と日本を考える『言論人』426、9月15日

囃と飛『月刊韓国文化』1・2、11月5日[『著作集2』収録]

1980(昭和 55)年

2つの法あり 欧米にもある犯罪の階級性『言論人』437、1月5日

一つの秘話－『教養学部の三十年』を読んで『[東京大学]教養学部報』257、2月18日[『著作集4』
収録]

「影」につきまといわれゾーッ[「めぐりあい」]『毎日新聞[夕刊]』1980年2月28日[「アメリカからの「招
待」」と改題<セレクション IV>収録]

1981(昭和 56)年

防衛についての感情[「あなたは「右傾化」をどう思いますか?」]『諸君!』13・2、2月1日

旧制一高の外国人学生たち[「判断意見」]『プレジデント』19・3、3月1日[『著作集3』収録]

法王の義務ではないだろうか[「風鐸」]『文化会議』142、4月1日

鈴木首相は徳川家康か ソ連の硬軟心理作戦にどう対処するか?『言論人』493、8月5日

安倍能成先生のこと『ももんが』25・12、12月1日[『著作集4』収録]

1982(昭和 57)年

社会構造とエゴイズム 事実は教条より強い＝ポーランド『言論人』508・509、1月5・15日

統率権をめぐって[「昭和史断想」]『祖国と青年』57、5月1日

詩の翻訳について『ベリひて』23、5月10日[『主役としての近代』収録]

人間性の普遍的基準『ももんが』26・6、6月1日[『正論』121、1983年6月に転載、『歴史的意識

について』収録]

ヨーロッパ人の自信 他文化理解に自分の尺度は禁物『言論人』524、6月15日

個人主義と和 儒教の日本への影響に関する欧米人の二つの見解『言論人』532、9月5日

人間は世界を幻のように見る『正論』111、10月1日[『歴史的意識について』収録]

昭和史と東京裁判[「特集 いま問い直す東京裁判」]『正論』114、12月1日[『歴史的意識について』、『恐れずおもねらず 雑誌『正論』30年の軌跡』(産経新聞ニュースサービス、2003年)、<セレクション I>収録。仏語訳要約版: Questions sur le procès de Tokyo『Cahiers du Japon』Numéro spécial, 1984. 『正論』525<9月臨時増刊号>、2015年7月22日に再録]

東の正義と西の正義[「特集 いま問い直す東京裁判」]『正論』114、12月1日[鼎談: 西義之、小堀桂一郎]

1983(昭和 58)年

昔からの持ち味—日本人の美意識、倫理感も長い混乱期を経て個性に従い形成されている—『言論人』544・545、1月5・15日[『歴史的意識について』収録]

二・二六事件に思う『世界日報』2月25日[『歴史的意識について』収録]

ユダヤ人惨殺の源泉 ヒットラーは命令したか『言論人』558、5月25日

人間性の普遍的基準『正論』121、6月1日[『ももんが』26-6、1982年6月1日から転載]

エスカレーションという法則『世界日報』7月7日[『歴史的意識について』収録]

日本人は何故こうも誤解されるのか『正論』124、8月1日[「外国人の日本文化批判」と改題『主役としての近代』収録]

フランス五月革命余聞『郵政』35-8、8月1日

国体とは『文芸春秋』61-10、9月1日[『歴史的意識について』収録]

彼等の側の印象[昭和13年のヒットラー・ユーゲント—高訪問記の未発表原稿]『向陵』25-2、10月30日

*アナル派について—ある歴史学派、掲載誌未詳[『歴史的意識について』収録]

1984(昭和 59)年

生と死[「文化」]『サンケイ新聞[夕刊]』1月23日[『主役としての近代』収録]

教育論によせて 共同体帰属意識のうすい日本人『言論人』588、3月25日

カーター大統領のキス『文芸春秋』62-4、4月1日[『主役としての近代』収録]

ベルリンの第二の壁についての推理『文芸春秋』62-5、5月1日[『主役としての近代』収録]

死ぬ前の支度[「文化」]『毎日新聞[夕刊]』5月26日[『主役としての近代』収録]

一神教だけが高級宗教ではない『文芸春秋』62-6、6月1日[『主役としての近代』収録]

白隠その他『文芸春秋』62-8、7月1日[『主役としての近代』収録]

神道の意味について[遺稿]『正論』139、8月1日『主役としての近代』収録]

浦上とゴッドの怒り『文芸春秋』62-9、8月1日[『主役としての近代』収録]

掲載誌・刊行年月日未詳

なんば、掲載誌・刊行年月日未詳

日本の女性、掲載誌・刊行年月日未詳

*「主要発表一覧」(平川祐弘編「著作年表」(『竹山道雄著作集 8』福武書店、1983年)に採録されている以下の著作は、確認できない。

小説管見『人間美学』昭和23年6月<「小説管見―「野性の誘惑」を読んで―」(『光』4-6、昭和23年6月)は確認できるが、『人間美学』1~8号(1948年)に掲載はない>

ある捕鯨の話『日本経済新聞[夕刊]』1952年6月1日

根本義を理解せしむるもの『岩波独和辞典』昭和28年4月<『岩波独和辞典』(岩波書店、1953年4月)の書評または推薦文ではないかと思われるが未詳。『岩波独和辞典』には収録されていない>

ネルーの演説『婦人公論別冊』昭和38年1月<昭和38年1月発行の『婦人公論別冊』は確認できない>